

教育委員会事務点検・評価報告書

令和元年度事業



国指定史跡 小山崎遺跡

竪穴住居の暮らし イメージ図

令和2年9月
遊佐町教育委員会

目 次

I 教育委員会事務の点検・評価の概要

- 1 点検・評価の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 2 点検・評価の実施方法等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 3 点検・評価結果の公表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 4 取り組みの経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 5 点検・評価対象項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

II 点検・評価の結果

- 1 未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - 1 乳幼児期の教育と子育て支援の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - 2 コミュニティ・スクールの推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - 3 よりよい生き方を育む教育の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - 4 確かな学力を育む教育の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - 5 変化に対応する力を育む教育の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
 - 6 教育環境の整備の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 - 7 青少年の健全育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 2 心豊かに「いのち」輝く町民の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
 - 8 生涯学習推進体制の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
 - 9 生涯学習の基礎的環境づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
 - 10 多様な生涯学習機会の提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
 - 11 次世代につなぐ地域活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
 - 12 うるおいに満ちた芸術文化活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
 - 13 文化財等の調査・保存と継承・活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
 - 14 歴史・文化遺産の保存と継承・活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
 - 15 はつらつとした生涯スポーツ活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
 - 16 確かな教育行政の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

III 学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

IV 教育委員会の活動状況

- 1 教育委員会の委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
- 2 教育委員会の主な職務権限・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
- 3 総合教育会議の開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
- 4 教育委員会会議の開催状況及び審議内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
- 5 教育委員会会議以外の活動内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

V 事業評価点検評価シート

1	乳幼児期の教育と子育て支援の推進	
	② 職員研修の推進／④ 子育て相談や研修の推進（シート①）（新規）	29
	③ 給食の充実と食育の推進（シート②）	31
2	コミュニティ・スクールの推進	
	① 「学校運営協議会」を活かす学校運営の推進（シート③）	32
	② 学校支援地域活動の推進（学習支援塾）（シート④）	33
3	よりよい生き方を育む教育の推進	
	③ 豊かな感性の涵養（文化芸術の公演）（シート⑤）	34
4	確かな学力を育む教育の推進	
	① 児童生徒理解に基づく学力育成策の確立／② 探究的な学習の推進 （シート⑥）	35
	⑥ 特別支援教育の推進（シート⑦）	37
	⑧ 教職員のゆとり創造と研修の推進（シート⑧）（新規）	38
5	変化に対応する力を育む教育の推進	
	② 情報教育の推進（シート⑨）	39
	③ 高校や大学等との連携の推進（シート⑩）	40
6	教育環境の整備の推進	
	③ 就学支援の推進（シート⑪）	42
	④ 小中学校の適正整備の推進（シート⑫）	44
7	青少年の健全育成	
	① 社会参加を促す活動の推進（シート⑬）	45
	③ 地域全体で育む活動の推進（シート⑭）	47
9	生涯学習の基礎的環境づくり	
	② 読書活動の推進（シート⑮）	49
	③ 家庭・学校・地域の連携（シート⑯）	51
10	多様な生涯学習機会の提供	
	② 現代的な課題への学習機会の提供（シート⑰）	52
11	次世代につなぐ地域活動の推進	
	① 地域教育力の向上（学び合い・教え合い）（シート⑱）	54
	② 地域まちづくり活動の活性化（1）（シート⑲）	56
	② 地域まちづくり活動の活性化（2）（シート⑳）	57
12	うるおいに満ちた芸術文化活動の推進	
	② 芸術文化作品鑑賞機会の提供（シート㉑）	58

13	文化財等の調査・保存と継承・活用	
	① 文化財の調査・保存の推進（シート⑳）	59
	② 民俗芸能・民俗行事の保存と継承・活用（シート㉓）	60
14	歴史・文化遺産の保存と継承・活用	
	① 歴史資料や文化遺産の調査・保存と継承（シート㉔）	61
	② 歴史・文化遺産の活用（シート㉕）	62
15	はつらつとした生涯スポーツ活動の推進	
	② 関係団体等との連携と各種スポーツグループ・団体等の支援（1） （シート㉖）	63
	② 関係団体等との連携と各種スポーツグループ・団体等の支援（2） （シート㉗）	65
	④ 施設・設備の整備と活用（シート㉘）	67
	⑤ 生涯スポーツの推進（シート㉙）	68

【参考資料】

1	「躍動」する遊佐っ子10か条	71
2	遊佐町子どもの声調査	72
3	令和元年度町立図書館利用状況	73
4	令和元年度生涯学習まちづくり出前講座実績	74
5	令和元年度体育施設等の利用実績	76
6	令和元年度（第27回）奥の細道鳥海ツアーマーチ参加者実績	77
	第2次遊佐町教育振興基本計画の体系図	78

I 教育委員会事務の点検・評価の概要

1 点検・評価の目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進を図るとともに、町民への説明責任を果たしていくため、教育委員会が執行した事業について点検・評価を行い、その報告書を町議会に提出し、また町民に公表するものです。

併せて、学識経験者の意見も踏まえ、点検・評価結果を次年度以降の施策の推進や改善に反映させていきます。

※参考 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及びその執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の実施方法等

(1) 点検・評価の対象項目の選定

今年度も点検・評価の対象項目は「第2次遊佐町教育振興基本計画」の「施策」の中から、今後、特に継続的、重点的に実施していく必要のある取り組みを選定しました。

(2) 点検・評価の実施方法

選定した点検・評価項目(施策)に関する取り組みの「事業概要」「令和元年度の取り組みの結果(成果と課題)」について、事務局から委員が説明を受け、点検・評価を行い、「課題」を明確化し「今後の方向性」について示しました。

(3) 学識経験を有する者の知見の活用

点検・評価の結果について客観性を確保するために、次の二氏から意見をいただきました。

○武田 真理子 氏
東北公益文科大学 教授

○加藤 博之 氏
前遊佐中学校校長

3 点検・評価結果の公表

(1) 議会報告

- ① 報告時期 令和2年9月
- ② 報告方法 報告書を議長に提出

(2) 町民への公表

- ① 公表時期 令和2年9月
- ② 公表方法 遊佐町ホームページに報告書を掲載

4 取り組みの経過

時 期	取り組み内容
3月7日～ 3月31日	○事務局各係による内部評価の実施
6月22日	○教育委員による内部評価（課題の明確化と今後の方向性）
7月 8日	○学識経験者2氏へ点検・評価への意見の依頼 （事前説明会・ヒアリング）
7月21日	○学識経験者2氏から点検・評価への意見書の提出
7月27日	○教育委員会会議で点検・評価結果の議決

5 点検・評価対象項目（事業）

基本施策		施策	
1	乳幼児期の教育と子育て支援の推進	① 職員研修の推進／子育て相談や研修の推進（新規）	学校指導係
		② 給食の充実と食育の推進	総務学事係
2	コミュニティ・スクールの推進	③ 「学校運営協議会」を活かす学校運営の推進	学校指導係
		④ 学校支援地域活動の推進（学習支援塾）	
3	よりよい生き方を育む教育の推進	⑤ 豊かな感性の涵養（文化芸術の公演）	学校指導係
4	確かな学力を育む教育の推進	⑥ 児童生徒理解に基づく学力育成策の確立／探究的な学習の推進	学校指導係
		⑦ 特別支援教育の推進	
		⑧ 教職員のゆとり創造と研修の推進（新規）	
5	変化に対応する力を育む教育の推進	⑨ 情報教育の推進	総務学事係
		⑩ 高校や大学等との連携の推進	
6	教育環境の整備の推進	⑪ 就学支援の推進	社会教育係
		⑫ 小中学校の適正整備の推進	総務学事係

7	青少年の健全育成	⑬ 社会参加を促す活動の推進 ⑭ 地域全体で育む活動の推進	社会教育係
8	生涯学習推進体制の整備	施策3項目のうち該当施策は無し	
9	生涯学習の基礎的環境づくり	⑮ 読書活動の推進 ⑯ 家庭・学校・地域の連携	社会教育係
10	多様な生涯学習機会の提供	⑰ 現代的な課題への学習機会の提供	社会教育係
11	次世代につなぐ地域活動の推進	⑱ 地域教育力の向上（学び合い・教え合い） ⑲ 地域まちづくり活動の活性化（1） ⑳ 地域まちづくり活動の活性化（2）	社会教育係
12	うるおいに満ちた芸術文化活動の推進	㉑ 芸術文化作品鑑賞機会の提供	社会教育係
13	文化財等の調査・保存と継承・活用	㉒ 文化財の調査・保存の推進 ㉓ 民俗芸能・民俗行事の保存と継承・活用	文化係
14	歴史・文化遺産の保存と継承・活用	㉔ 歴史資料や文化遺産の調査・保存と継承 ㉕ 歴史・文化遺産の活用	文化係
15	はつらつとした生涯スポーツ活動の推進	㉖ 関係団体等との連携と各種スポーツグループ・団体等の支援（1） ㉗ 関係団体等との連携と各種スポーツグループ・団体等の支援（2） ㉘ 施設・設備の整備と活用 ㉙ 生涯スポーツの推進	社会教育係
16	確かな教育行政の推進	施策2項目のうち該当施策は無し	

注) 第2次遊佐町教育振興基本計画体系においては、**基本的方向** → **基本施策** → **施策**の流れとなっており、『Ⅰ 未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成』のもとに、基本施策1～7が属している。同様に、『Ⅱ 心豊かに「いのち」輝く町民の育成』のもとに基本施策7～15が、加えて別に基本施策16がそれぞれ属している。

また、施策の丸囲みの番号は、目次Vの事務事業点検評価シートの番号と一致しているが、この報告書の末尾の体系図の施策にある番号とは一致していない。

Ⅱ 点検・評価の結果

平成26年6月、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正となり、平成27年4月1日から施行されています。教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、地方公共団体の長と教育委員会との連携の強化等教育委員会制度の抜本的な改革を行うものです。

本町教育委員会においても、この法改正の趣旨を踏まえ、町長と教育委員会の連携強化を図り、町長が設置した総合教育会議において、これまで以上に様々な分野について協議し、町をあげて未来を担う子どもたちを育てていきたいと考えています。

平成29年10月に策定した第2次遊佐町教育振興基本計画の基本的方向、基本施策ごとの点検・評価を行い、施策ごとの評価は、**目次V（P29～P70）**の事務事業点検評価シートにまとめています。

① 未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成

平成29年3月に新しい学習指導要領が公示され、子どもたちが未来を切り拓くための資質・能力の育成が求められています。これまで大切にされてきた「子どもたちに『生きる力』を育む」という目標は変わっていません。本町でも、これまでの実践や成果の蓄積を活かしながら、新しい時代を生きる上で必要な資質・能力を育み、地域とともにある学校づくりを推進しています。

学力向上に向けた取り組みでは、藤崎小学校の「遊佐町教育委員会委嘱公開研究発表会」や各小中学校において、児童生徒の主体的な学びを実現するための実践が積み上げられ、着実な成果を上げています。今後も、学ぶ楽しさを味わわせる授業づくりを大事にしながら、思考力・判断力・表現力等の育成に向けた授業改善の指導や支援をしていく必要があります。

特別な支援を必要とする児童生徒の認知数は増加傾向にあり、多様な指導と支援が求められています。各小中学校では、個別の教育支援計画・指導計画に基づく日常的な指導や支援を進めています。

いじめが全国的に大きな問題となっている中、「いじめはどの児童生徒にも、どの学校においても起こりうる」という基本認識のもと、未然防止と早期発見、速やかで組織的な対応が求められています。平成29年3月に国、11月に県のいじめ基本方針が改定され、本町でも、児童生徒の感じる被害性に着目し、積極的ないじめの認知と早期対応に力を入れています。

本町では、今年度も青少年の犯罪は無く、生徒指導に関する大きな問題行動はありませんでした。不登校傾向の児童生徒についても近年良好な状況にあり、昨年度増加に転じましたが、今年度は減少しております。今後も十分な対応を継続していく必要があります。

防災教育については、地域と一緒にやって行う避難訓練や新たな危機に対応する訓練（Jアラート対応）等の工夫が見られます。通学路の安全、不審者対応等を充実させ、児童生徒自身の「危険回避能力」の育成を図っております。

学校教育と社会教育の連携により、地域ぐるみで青少年を育成していく機運が醸成されつつあります。中高生を対象にした、少年町長・少年議会（17期目）や青少年ボランティア活動は、地域との連携の輪を広げながら遊佐町のPRを主とした政策提言の実現を果たすなど、着実に若者の社会参加意識が醸成され、成果を上げています。

また、PTA活動を中核とした、親世代の学びの支援とその充実が課題となっておりましたが、第18回子育てフォーラムでは、親世代をはじめ、多世代にわたり多くの参加をいただいたことで、前回に引き続き盛況で有意義な発信ができました。将来の財産である子どもたちのために、今後も多くの参加をいただき、遊佐町の良さである学校と家庭、地域のつながりを大切にしながら、「躍動」する遊佐っ子10か条【参考資料1】を地域全体で定着させていく取組みを継続して展開していきます。

コミュニティ・スクールの推進では、全小中学校に学校運営協議会が設置されており、充実した熟議が行われました。今後も、地域とともにある学校づくりを推進し、認定子ども園・保育園、小学校、中学校、地元の高等学校、さらに地域との連携を一層密にした取組みの充実に向けて支援していきます。

1 乳幼児期の教育と子育て支援の推進

ここでは、施策4項目のうち2項目を取り上げました。

「2 職員研修の推進／4 子育て相談や研修の推進」（シート①）（新規）では、幼保小の教職員研修と保護者向け研修のペアレント・トレーニングについて評価しています。教職員研修では、幼保小の連携による接続期の教育の充実のための具体的な方策等について深く学ぶことができました。ペアレント・トレーニングでは、子どものことをより深く理解し、適切な接し方について学ぶ機会となり、参加者からは好評を得ることができました。

今後も、教職員や保護者向け研修の充実に向けての取組みは重要であると考えます。

「3 給食の充実と食育の推進」（シート②）では、学校と野菜生産者の連携を密にすることで、安定した価格で食材を仕入れることができ、新鮮で安全な季節の野菜を給食で豊富に提供することができています。

また、学校給食における県産農産物使用割合が県内上位であり、県内外に誇れる「安全でおいしい給食」であると言えます。

令和元年度は、児童数の減少や地元野菜生産者の高齢化等により配送や価格の面で課題が出てきていることから、野菜生産者との意見交換会を行いました。

今後も、諸課題を整理し生産者が安心して継続的に野菜を納入できるよう改善を図っていきたいと考えております。

2 コミュニティ・スクールの推進

ここでは、施策2項目のうち2項目を取り上げました。

「1 「学校運営協議会」を活かす学校運営の推進」(シート③)では、全小中学校への学校運営協議会の設置と組織や運営体制について評価しています。各学校ともこれまで積み上げてきた「地域とともにある学校づくり」の良さを引きついだ学校運営が行われ、活発な熟議が行われました。

また、今年度から学校運営協議会の委員によるコミュニティ・スクール進捗状況の評価を行いました。次年度以降、進捗状況を客観的に評価する指標として活用していきます。

今後は、学校運営協議会をより機能させ、地域と学校が双方向で成果と課題を共有しながら、家庭や地域の声を学校運営に生かしていくとともに、地域学校協働活動推進委員の委嘱と活用にも取り組んでいきます。

「2 学校支援地域活動の推進(学習支援塾)」(シート④)では、中学校3年生を対象に開催した学習支援塾について評価しています。今年度は多くの講師の方々からご協力いただき、生徒に個別に対応することができました。参加者からの評価も高く、受験期の学習に向かう雰囲気づくりに貢献することができました。

講師である大学生の交通手段の確保と企画運営する人材の確保が課題ですが、運営方法を工夫しながら、次年度も学習支援塾を開催していきます。

3 よりよい生き方を育む教育の推進

ここでは、施策6項目のうち全1項目を取り上げました。

「3 豊かな感性の涵養(文化芸術の公演)」(シート⑤)では、子どもたちに対する文化芸術を鑑賞・体験する機会の確保について評価しています。遊佐町小学校鑑賞教室や文化庁「文化芸術による子供の育成事業(巡回公演事業)」の開催により、文化芸術への関心を高め、豊かな感性や創造性を育む機会となりました。

今後も、文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するために、遊佐町小学校鑑賞教室への町補助金の支援や文化庁「文化芸術による子供の育成事業(巡回公演事業)」への応募を継続していきます。

4 確かな学力を育む教育の推進

ここでは、施策8項目のうちの3項目を取り上げています。

「1 児童生徒理解に基づく学力育成策の確立/2 探究的な学習の推進」(シート⑥)では、小中学校の授業研究会や公開研究発表会において、児童生徒の主体的な学びを実現するための授業改善がなされております。

また、昨年度から子どもの声調査を実施しており、全町的な児童生徒の実態を把握することができました。教科の学習が好きになる授業づくりについては、各校の特色を生かした実践がなされ講師を招聘しての研修会には多くの教職員の参加があり、これからめざしていきたい授業づくりの姿を共有することができました。

今後も子どもの声調査を継続し、学ぶ楽しさを味わわせる授業づくりに焦点化するとともに、読解力を含めた学習の基盤となる言語能力のさらなる向上にも力を入れていきます。

「6 特別支援教育の推進」(シート⑦)では、各種研修会への参加や特別支援教育アドバイザーによる各校への訪問の機会を通して、障がいについての理解とその支援の進め方や校内体制のあり方について研修し、成果を上げています。

また、各校の状況を詳細に把握し、特別支援教育支援員を適切に配置することで、組織的な対応や一人一人の教育的ニーズに応じた支援が幅広く行われています。

今後は、特別な支援を必要とする児童生徒への支援方法を十分検討し、教職員の専門性を高めるための研修や人的な支援の充実を図っていきます。

「8 教職員のゆとり創造と研修の推進」(シート⑧)(新規)では、部活動指導員の配置により部活動を担当する教員の負担が軽減されており、遊佐町中学校部活動等ガイドラインについては学校との連携が図られ概ねガイドラインに沿った活動がなされている状態です。

今後も部活動指導員の配置の継続と充実を図り、遊佐町中学校部活動等ガイドラインに関する啓発も継続していきます。

5 変化に対応する力を育む教育の推進

ここでは、施策4項目のうち2項目を取り上げました。

「2 情報教育の推進」(シート⑨)では、児童生徒用学習パソコンや教職員の業務用パソコンのハード面・ソフト面の更新等について評価をしています。

令和元年度は、遊佐・藤崎小学校教職員用パソコンの整備、遊佐・藤崎・蕨岡小学校の児童用タブレットPCの更新を図りました。また、新年度には、新学習指導要領において情報活用能力が、言語能力、問題発見・解決能力等と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられます。それに伴いGIGAスクール構想の実現に向けて、遊佐小・遊佐中学校の情報通信ネットワークなどの整備を図っていきます。小学校においては、プログラミング教育が必修化されるなど今後の学習活動においてICTを一層活用されることが想定されます。

新年度は、GIGAスクール構想による遊佐小学校・遊佐中学校のネットワークの強化、蕨岡小学校のネットワークの構築、電子黒板の導入等、ICT環境の強化に努めます。

「3 高校や大学等との連携の推進」(シート⑩)では、「遊佐高校就学支援事業」を取り上げました。

遊佐高校の存続は、遊佐町の振興にとって極めて大きな課題であると考え、平成26年度から「遊佐高校支援の会」を事業主体として、就学支援事業に取り組んできました。

平成30年度から県外出身者の入学が可能となったことで、令和元年度より県外からの入学者の確保に向けて本格的に取り組みました。「遊佐町自然体験型留学生募集要項」に基づき、県外からの志願者を募集した結果、令和2年度は、男子3人、女子2人、計5人の県外入学者がありました。

令和2年2月に、山形県教育委員会において、「県立高校再編整備基本計画」のルールが緩和されました。これまでは、入学者数が2年連続して入学定員の2分の1に満たない場合は、原則としてその2年後に募集停止になるということでしたが、高校の魅力化に向けた協議会の設置や2年続けて定員の半数を下回った場合でも地元自治体と協議するという方向性が示されました。

令和元年度の入学者数が18人であり定員40人の2分の1に満たなかったため、令和2年度の入学者数が心配されましたが、ルールの緩和によりいったんその心配は無くなりました。なお、令和2年度の入学者数は35人でした。

6 教育環境の整備の推進

ここでは、施策4項目のうち2項目を取り上げました。

「3 就学支援の推進」(シート⑪)では、「放課後子ども教室事業」を評価しました。

地域の方々の参画を得ながら、子どもたちの放課後の安全な居場所、活動拠点を設け、学習や体験活動等を展開しています。

スタッフ研修会では、スタッフが現場での課題や子どもへの対応方法の悩みについて、教育事務所職員からアドバイスを受け、地域で子どもを見守る体制が強化されています。また、異なる学年やスタッフとの交流を通し、子どもの自主性が身についた教室となっています。

一方で、スタッフの高齢化や後継者不足、健康福祉課による放課後児童クラブでの受け入れが定員を超えているなどの課題があるため、新規スタッフの育成と確保、健康福祉課と連携して地域の実情に合わせた受け入れ体制を整えていく必要があります。

「4 小中学校の適正整備の推進」(シート⑫)では、「遊佐町立小学校適正整備に関する基本方針」に則り設置された「遊佐町立小学校新校開校準備委員会」(以下、開校準備委員会)について評価を行いました。

開校準備委員会について、令和元年7月19日に理事会、8月8日に総会および3つの部会である総務部会、PTA部会、学校部会が開催され、具体的な協議が始められました。

3つの部会はそれぞれ5～6回開催され活発な協議がなされて、特に総務部会においては、統合新小学校の校名を広く町民から募集し、その校名について「遊佐町立遊佐小学校」

ということで選定に至りました。その後、その校名は、理事会で決議されました。(次年度の教育委員会会議に上程)

今後、様々な協議項目や課題が出てくることが想定されるが、開校準備委員会を中心にしながら活発な協議を重ね、令和5年4月の統合新小学校の開校がスムーズにできることを期待したい。

7 青少年の健全育成

ここでは、施策4項目のうち2項目を取り上げました。

「1 社会参加を促す活動の推進」(シート⑬)では、「少年町長・少年議会公選事業」を評価しました。

この事業により選出された少年町長・少年議員が有権者の声を参考に、意見交換会の実施、少年議会便りの作成、ゆぎミュージックフェスティバルの実施を政策として行いました。学校生活との両立を図りながらの少年議会、全員協議会や町内イベントへ参加し、活動の中では性別、学校や学年を超えて活発な議論や作業が行われました。地域リーダー育成を視野に、ボランティア活動等と連携し、一体的な社会参加と郷土愛の醸成を築いていく重要な事業となっています。

「3 地域全体で育む活動の推進」(シート⑭)では、青少年育成協議会と遊佐町PTA連絡協議会との共催で、「ふるさとを愛し、未来を拓く『いのち』輝く子どもの育成」をテーマとして開催した「子育てフォーラム」を評価しました。

第2次教育振興計画における「はぐくむ子ども像」に基づいて、「ふるさとに学び未来につなぐ子どもたち」をスローガンに掲げ、「早起き・朝ごはん・躍動・早寝」運動や子どもの生活実態調査の結果を共有するなど、生活リズムの向上を後押しする取り組みを町民に向け発信しました。県立遊佐高等学校と遊佐町との連携に関する取組事例「来ちゃいなよ、ゆぎこう」の取り組みや、文部科学大臣賞を受賞した活発な読書活動の事例発表では、生徒たちのふるさとを愛し学校存続のため活動する姿や課題に取り組む様子が報告され、子どもたち独自の視点で遊佐町のことを考えていることがわかり、継続して実施して欲しいなどの意見が寄せられました。

平成30年度から全小中学校でコミュニティ・スクール制度を導入しており、各地区の取組事例を共有する機会として、また今後もより多くの子育て世代に参加していただくため、継続して有意義なフォーラム運営に努めていく必要があります。

② 心豊かに「いのち」輝く町民の育成

平成29年度に策定した「遊佐町生涯学習推進計画」に基づく施策の展開の2年目になります。少子化を伴う人口減少社会における持続可能なまちづくり（地方創生）に向け、時代に即応した多様な学習ニーズや地域の抱える課題を捉えながら、主体的な社会参加を促す研修会や生涯学習出前講座等の学習機会の提供に努めていくことが求められています。

全小中学校で導入しているコミュニティ・スクール（地域とともにある学校）を生かした社会教育と学校教育の一層の連携・融合に成果がみられました。さらに、各まちづくりセンター事業を含めた町が行う生涯学習に関する施策を総合的に捉え、多くの町民がアクセスしやすい学習機会の提供や学習環境の整備等に努め、「協働のまちづくり」の機運をさらに高めていく必要があります。

文化財等の関係では、小山崎遺跡（縄文時代）が、令和2年3月10日に国の史跡に指定されました。ランドマークとしての鳥海山を背景に、豊富な歴史資料や文化財の保存、継承から活用に向けた施策の充実が待たれています。

8 生涯学習推進体制の整備

ここでは、施策3項目のうち該当施策は無し。

9 生涯学習の基礎的環境づくり

ここでは、施策3項目のうち2項目を取り上げました。

「2 読書活動の推進」（シート⑮）では、指定管理者による「図書館運営事業」について評価しました。

子どもの読書活動推進計画に基づく図書館運営計画による取り組みとして、乳幼児から小学生までとその保護者向けの各種事業が開催されました。また、学び合いスペースの開設に続く館内の有効利用を図るため「イトインコーナー」を設け、さらに全館WI-FIの整備を行うなど利用しやすい環境を整えました。

図書館協議会による「遊佐町子ども読書活動推進計画」の評価では、町立図書館における数値目標の検証、学校の読書活動アンケート調査結果を基に現状把握が審議されました。これをもとに、家庭や地域、幼稚園・保育園、学校、町立図書館が連携し、図書館協議会と図書館主任会で協議検討を行います。

「3 家庭・学校・地域の連携」（シート⑯）では、「家庭教育講座の開催」について評価しました。全ての親への学習機会や情報の提供、相談体系の充実、家庭教育に対する学習機会の効果的な提供を支援するための「やまがた子育て講座」は、全ての小中学校での調整ができず、3校のみの開催となり今後の課題となりました。また、保育園内において、人やもの、自然との関わりを重視した親子の体験的な活動等の提供を支援する「幼児共有

ふれあい広場」は、全ての保育園と子どもセンターで実施することができました。

いずれの事業も、全ての学校、保育園等で開催に向けての事業説明を行うとともに、まちづくり協議会や各関係機関と連携し、地域の教育力の向上につながる研修機会の充実につなげていきます。

10 多様な生涯学習機会の提供

ここでは、施策2項目のうち1項目を取り上げました。

「2 現代的な課題への学習機会の提供」(シート⑰)では、「協働のまちづくり研修会開催事業」と「男女(みんな)のセミナー」を評価しました。

「協働のまちづくり研修会開催事業」については、調整が取れず事業未実施となりました。

「男女(みんな)のセミナー」については、男女がともに地域参画する意識醸成とリーダー育成につながる題材や研修を検討し開催しています。ほとんどが女性の参加ですが、各地区まちづくり協議会や各団体組織との連携のもとに地域課題に沿った男女問わず参加しやすい研修のあり方を計画していきます。

11 次世代につなぐ地域活動の推進

ここでは、施策2項目のうち2項目を取り上げました。

「1 地域教育力の向上(学び合い・教え合い)」(シート⑱)では、「ゆぎオモシロラボ」支援と「二十歳のつどい実行委員会」事業の評価を行いました。

ゆぎオモシロラボでは、町内の若者(20~39歳)から会員を募り会員同士の交流や主催イベントの企画・運営などを通して幅広い交流を図っています。令和元年度の自主企画は、「出張サンタ」のみに止まり、会員の参加意欲に課題が残る結果となりました。しかし、「出張サンタ」の申込み数は10件と、前回の3件を大幅に超える申込みがあり、幼稚園や保育園に直接周知に訪問しての効果が出たようです。

また、二十歳のつどい実行委員会では、新成人者で構成される実行委員会を組織して、成人式式典とパーティの企画、運営を行い、積極的な意見とその内容を話し合う姿勢が見られました。これを機会に縦のつながりに結び付け、10年後の三十路成人式での運営に関わるなど、地元に着目を持ってまちづくりを担う若いリーダーの育成につなげられるよう取り組んでいきます。

「2 地域まちづくり活動の活性化(1)(2)」(シート⑲⑳)では、(1)「生涯学習まちづくり出前講座事業」、(2)「ゆぎエブリワンズ・カレッジ2019」の2事業の評価を

行っています。

「生涯学習まちづくり出前講座」は、町民が興味や関心を持って学習したい内容を、町職員が要請に応える形で、わかりやすく説明し、意見の交流を交えながら学習し地域づくりに活かしていくために開催しています。令和元年度は国指定史跡に認められたこともあり、「小山崎遺跡から見える縄文の風景・くらし」の講座を100人近くの住民が受講されました。今後は広報への定期的な掲載のほか、各まちづくりセンターと連携を取りながら地域団体への周知を図り、また、遊佐町を知る機会を作るため、遊佐中学校、遊佐高校の学生にも活用を促していきます。

「ゆぎエブリワンズ・カレッジ2019」は、多様な生涯学習のニーズを考慮した学習機会の充実を図る目的で実施しています。幅広い年代における生きがいと仲間づくりなどを目指し、地域の特性と人材を活かした講座を、3事業（料理講座・ハンディクラフト講座・スポーツでリフレッシュ講座）企画しました。そのうちのハンディクラフト講座には継続を望む声が多く、アンケート内容でも満足している様子がかがえしました。一方、スポーツでリフレッシュ講座は、周知のタイミングが遅れてしまい、思うように参加者が集まらなかったという課題が残りました。今後は町民意識調査における町民の関心度に着目し、他の取組事例も参考にしながら、より参加しやすい講座の開設を検討する必要があります。

12 うるおいに満ちた芸術文化活動の推進

ここでは、施策4項目のうち1項目を取り上げました。

「2 芸術文化作品鑑賞機会の提供」（シート②）では、「第47回遊佐町芸術祭」、「講演会や各種鑑賞機会の提供」について評価しています。芸術祭は、日頃芸術文化活動に取り組む町民の発表の場として、毎年遊佐町芸術文化協会との緊密な連携のもと、開催内容に工夫・改善等を重ねています。今回は芸術文化協会に加盟している17団体1個人中、12団体が芸術祭で公演・展示を行い、町内外から多くの来場者がありました。その中で、ゆぎ演劇研究会が第57回県民芸術祭で優秀賞を受賞しました。

高齢化により退会する団体が増えていることが課題となっていますが、新たに子ども会員がいるC-Dreamsとスマイルキッズが入会しました。今後も本町芸術文化振興のため、既存団体の活動の情報発信、新たな団体の発掘と周知に努めます。

講演会や各種鑑賞機会では、10月にファルカシュ・ガーボル氏を招きピアノリサイタルと中学校でのスクールコンサートを開催し、町民、生徒に質の高い音楽に触れる場を提供しました。2月末開催予定でした飯森範親&山形交響楽団によるコンサートは、ホールが満席になるチケットの売れ行きでしたが、新型コロナウイルス感染症予防のため、コンサート前日に急遽中止となりました。うるおいに満ちた芸術文化の活動を推進するため、今後も町民への鑑賞機会の提供を進めていきます。

1 3 文化財等の調査・保存と継承・活用

ここでは、施策2項目のうち2項目を取り上げました。

「1 文化財の調査・保存の推進」(シート⑳)では、文化財保護審議会での協議を業務の指針としながらの文化財調査・保存推進事業について評価を行っています。

令和元年度は文化財保護審議会を2回開催し、松くい虫被害のあった町指定天然記念物の「丸子の社叢」の指定解除について協議しましたが、結論は次年度へ持ち越しとなりました。地震による倒壊のおそれがあった町指定文化財の龍頭寺の仁王立像は、町指定文化財補助金の交付を受け、修理と固定化作業が実施されました。また、長年の調査と活用事業の努力が実り、小山崎遺跡が国の史跡に指定されました。

「2 民俗芸能・民俗行事の保存と継承・活用」(シート㉓)では、第60回の記念大会に当たり盛大に催行された遊佐町民俗芸能公演会と、平成30年11月、ユネスコ無形文化遺産に登録された「遊佐の小正月行事(アマハゲ)」に関連する事業について記述しました。

1 4 歴史・文化遺産の保存と継承・活用

ここでは、施策2項目のうち2項目を取り上げました。

「1 歴史資料や文化遺産の調査・保存と継承」(シート㉔)では、「ゆぎ学講座」など町民向けの講演会について評価しました。

「ゆぎ学講座」は、「ゆぎを知り・ゆぎに学び・ゆぎに生きる」をテーマに、毎年様々な角度から遊佐の歴史や文化について学習してきました。昨年度と比較して、今年度の受講者は半減してしまい、効果的な周知の必要性を再認識しました。

「2 歴史・文化遺産の活用」(シート㉕)では、国指定重要文化財旧青山本邸の一般公開事業を中心に評価をしています。

旧青山本邸では、入館者数の減少が続いていたことから、一昨年度から企画展などを実施し、微増の傾向できましたが、新型コロナ・ウイルスの感染拡大により、令和2年3月以降、来館者が激減してしまいました。臨時休館をしているなかで、来館者の増加は難しい局面にありますが、次年度は山形県の「未来に伝える山形の宝」事業を活用し、町指定文化財の船絵馬の保存修復に取り組む予定です。

15 はつらつとした生涯スポーツ活動の推進

ここでは、施策8項目のうち3項目を取り上げました。

「2 関係団体等との連携と各種スポーツグループ・団体等の支援(1)」(シート⑳)では、「スポーツクラブ等の支援事業」として、遊佐町総合型スポーツ文化クラブ「遊's(ゆず)」の運営支援、補助金交付、イベント共催・支援など、クラブ自立に向けた支援を行いました。

昨年度でスポーツ振興くじ助成が終了し、今年度から町単独の補助となるため補助対象事業の見直しを行い、会費内で運営する仕組みを整えクラブの自立に向けて取り組みました。会員数は年々増加傾向であり、クラブの周知が少しずつ広まってきているためと思われます。

令和2年度には町からの受託業務も予定されていますが、当面は町単独の補助を継続し、更なる受託事業を模索しながらクラブの自立に向けて支援していきます。

「2 関係団体等との連携と各種スポーツグループ・団体等の支援(2)」(シート㉑)では、「遊佐町体育協会への社会体育施設指定管理委託及び補助金交付によるスポーツ振興」について評価を行いました。

本町体育施設指定管理者の遊佐町体育協会と体育施設連絡調整会議や随時の打合せを行い、修繕箇所の検討・計画について情報共有し、体育館防火シャッター修繕工事、トレーニングセンター道場の一部床張替え、屋外簡易トイレの撤去等などを行い、利用者の利便性向上を図りました。施設が老朽化していることより突発的な修繕等が発生する可能性があります。体育施設指定管理者と随時打ち合わせを行い、計画的な修繕・更新を行っていきます。

体育協会独自のスポーツ推進事業が行われていないため、町や総合型スポーツ文化クラブ「遊's」との連携したスポーツ推進事業について協議をしていきます。

「4 施設・設備の整備と活用」(シート㉒)では、「冬季レクリエーション施設運営事業」の評価を行いました。

町民がスキーやそり遊びなどの冬季スポーツを楽しみ、健康の維持増進を図れる場を提供するため、鳥海スキークラブの協力のもと、1月～3月の冬期間、三ノ俣に冬季レクリエーション施設を開設しています。今年度は暖冬の影響で積雪が少ないため、例年よりも開設日数が少なく利用者は大幅に減少しました。

アンバーリフトや圧雪車の老朽化が激しく、特に圧雪車は毎年多額の修繕費が発生しています。圧雪車は特殊車両であり更新には多額の費用が掛かるため、当面は現車両を修繕しながら開設していきますが、今後検討が必要です。

町内で冬季スポーツができる唯一の施設であり、また、そり遊び等で多くの家族連れが利用するため、施設運営協力団体の鳥海スキークラブと連携・協議を密にし、今後も継続して開設していきます。

「5 生涯スポーツの推進」(シート㉑)では、「奥の細道鳥海ツデーマーチ」の評価を行いました。本町の豊かな自然の中を歩くウォーキング大会を開催することで、体力の向上と歩行文化のまちづくりを図ると共に、全国のウォーカーとの交流による情報の相互発信、交流人口の拡大を目指すものです。

令和元年度は、第27回大会として9月7日・8日に開催し、町内外から2,628名のウォーカーが参加しました。両日とも37度を超える猛暑の中での開催となり、1日目が37人、2日目が9人の計46名のウォーカーが本部に搬送されるという状況でした。前年度と比較すると全体の参加人数が減少したものの、18歳未満の参加率は微増し特に町内参加者の50%を占めるという若い方の参加が増えるという結果となりました。

引き続き、子どもたちの「歩育」の推進に向け、幼・保・小中高校との連携や広域連携も視野に入れながら、大人も子どもも日常的なウォーキング活動を啓発し、ツデーマーチへの参加促進を図っていきます。

1.6 確かな教育行政の推進

ここでは、施策2項目のうち該当施策は無し。

Ⅲ 学識経験者の意見

東北公益文科大学 教授 武田 真理子 氏

この度、「遊佐町教育委員会 令和元年度事業 事務点検・評価報告書(案)」を拝読させて頂き、さらに7月8日(水)に担当職員の皆様からのヒアリングを実施させて頂きました。その結果、以下の意見を申し上げたく、宜しくお願い致します。

1. 遊佐町の教育と人材育成について

報告書(案)及びヒアリングの結果、改めて遊佐町が教育、文化財等の保護・継承、社会教育に大変積極的に取り組まれており、各事業を継続的に展開されていることにより、「人づくり」を基盤とした地域づくりが推進されていることを確認いたしました。一方で、限られた人員体制、予算、資源の中での多数の事業実施には運営上の困難や課題が生じているのではないかと懸念を持ちました。以下でも述べさせていただきます通り、いくつかの事業は有機的に連携をさせたり、一体的に実施することによってより大きな成果・効果ははかれるのではないかと考えますので、全体を俯瞰した事業の見直し・整理を行うことを提案いたします。

2. 文化財、歴史・文化遺産の継承・活用について

令和元年度は新たに「小山崎遺跡」が国史跡として指定され、「三崎山旧街道」が文化庁「歴史の道百選」に選定されるなど、遊佐町の有する貴重な文化財等の保存・継承が進んだ一年であったことが確認できました。町立小学校及び遊佐高等学校では文化財等を活用した教育プログラムが展開されているようですが、中学校や社会教育事業においても地域理解教育や歴史教育の一環としてより積極的に文化財について学習する機会やプログラム開発を進めることを提案いたします。例えば、遊佐町のホームページ上の各文化財等の説明文を世界中の人に知っていただくために英訳をするプロジェクトを立ち上げたり、地域づくり協議会や観光協会等との取り組みとタイアップして、地域資源・観光資源としてさらなる活用をはかることが考えられます。

3. 子どもを中心にした保護者・学校・地域の連携の推進

「遊佐町子どもの声調査」の実施、特別支援教育体制の充実、ICT環境の整備、文化芸術公演の開催、学習支援塾の開催、遊佐高等学校生への学習活動等の支援をはじめ、遊佐町では一人ひとりの児童・生徒に対するきめ細やかな教育と支援の体制の整備が進められていることが確認できました。また、保護者に対しても就学相談会、ペアレント・トレーニング、「子育てフォーラム」の開催やPTA活動の支援が行われています。コミュニティ・スクールの推進は、「遊佐町子どもの声調査」等を継続実施することにより、子どもの課題の解決や一人ひとりの主体性を育む視点から保護者・学校・地域が連携・協働をすることにより、より力強い地域づくりにつながることが期待されます。

4. 「出口」を意識した社会教育プログラムの開発

遊佐町では全国に先駆けて「少年町長・少年議員公選事業」を展開するなど、社会教育の積極的な取り組みが行われています。一方で「ゆぎオモシロラボ」のようになかなか成熟化が難しい事業があることも確認しました。若者の組織化や地域リーダーの育成は多くの地方自治体に共通の課題ですが、その課題を克服するためには行政だけでなく広く地域社会から認知される「社会的認証」と学習・スキルアップしたことを活かせる「出口」を用意することの2点が重要なポイントになります。20歳から39歳を対象としている「ゆぎオモシロラボ」については、例えば、同じく社会教育事業として課題が顕在化している三ノ俣の冬季レクリエーション施設の活用方法をテーマに課題解決策の検討・提案を行い、それを実践してもらうなどの地域課題解決との連動で「出口」を用意することができるのではないかと考えます。また、防災教育の新しいプログラム開発など、地域の子どもたちのための活動を展開できれば、地域を面としてとらえる力や、自身の防災に関する知識の向上、他の団体・組織等とのネットワークの構築も進み、「社会的認証」も広がることが期待されます。全国各地で人口減少が進む中で、社会教育事業は大きな変革期に置かれていると感じます。

前遊佐中学校校長 加藤 博之 氏

1 はじめに

遊佐町には、6年間本当にお世話になりました。今回、教育委員会事業評価についてお声掛けをいただき、恐縮しております。

それぞれの担当者様より説明をお聴きし、改めて遊佐町の熱い思いと手厚い支援を再認識することができました。限られたスタッフの中で、少年議会やツーデーマーチなどの特色ある事業等々、幅広く展開されておられる教育委員会の皆様に改めて敬意を表します。

さて、遊佐町に限らず、少子高齢化、人口減の阻止、産業の育成、教育・福祉の充実が全国的な課題になっております。町の未来を担う若者達を育てるとともに、これら大きな課題解決について、少しでも役立ったらという視点で、考えたつもりです。

なお、限られた狭い領域の記述になってしまったことについては、お許し願います。

2 施策の良さと、今後の方向性

(1) すばらしさを広報すべきと考える事業

遊佐町で行っている施策は、すばらしいと感じています。もっと全国・世界にアピールしてはいかがでしょうか。コロナ禍の今だからこそ、HPやSNS等に注目する人は多いし、日本・世界中からの移住を真剣に考える人が出てくるのではないのでしょうか。頻繁に更新することと相互リンクすることで訪問客を多くしたいです。

○ PRしたい事業の例（番号はP6～7の点検・評価対象項目番号）

1-② 「給食の充実と食育の推進」

・県・地域産の新鮮で安全な食材の使用、各小中学校での自校炊飯給食で、とてもおいしい給食。子ども達の声やアンケート結果もPR。

2-④ 「学習支援塾」

・3年生の約5割が参加。声やアンケート結果をPR。学びあいの姿もPR。

4-⑦ 「特別支援教育支援員」「スクールカウンセラー」

・充実のスタッフ体制。教室におけるTTだけでなく、希望すれば個別対応も。個別対応で伸びた子どもの声もPR。

5-⑩ 「遊佐高校支援の会」

・就学支援金、介護職員初任者研修受講支援金、キャリアアップ支援、県外からの志願者支援等。高校生のインスタもリンクしながらPR。

7-⑭ 「子育てフォーラム」

・すばらしい講師、「来ちゃいなよ、ゆざこう」の取組、中学生・高校生の発表。各校のHP、SNS等で。

(2) 連携することで、さらに成果が上がると考える事業

連携・融合することで、その事業としての課題解決だけでなく、そのプロセスで生み

出される中高生や大学生、若者等の成長、そして行政と地域住民の関係の構造的な改革など、様々な面での成果が生み出されると考えます。

○ 連携・融合したい事業の例（番号はP 6～7の点検・評価対象項目番号）

2-③「コミュニティスクール」と10-⑰「地域のまちづくり研修会」

・学校経営を、保護者・地域の願いを受け止めながら、積極的に学校を核にしたまちづくりを行うために、さりげなく、地域の方や保護者の方の意見等を聴くことのできる「地域のまちづくり研修会」を「コミュニティスクール推進会議」とタイアップしてみたらどうでしょうか。コミュニティスクールでの「熟議」の仕方にもとても参考になると考えます。

7-⑬「少年議会」や11-⑱「ゆぎオモシロラボ」と14-⑳「青山本邸」

・遊佐町少年議会の取り組みは、全国に誇れる、若者の社会参加・参画を促すすばらしい事業です。近年、小中学生の主体的に社会貢献する意識は高まりました。それは、遊佐町中高生ボランティアサークル「くじら」への参加人数の多さ、少年議会への立候補者が多く、令和2年度は選挙になったこと、遊佐中のボランティアスタッフへの参加者や祭りの参加者の多さ等に表れています。

例えば、「青山本邸の入館者数を増やすためには」というような町の課題を「少年議員」や「ゆぎオモシロラボ」、あるいは「くじら」に投げかけ、若い発想で解決策を検討してもらい、実践してみたらどうでしょうか。その際、地域おこし協力隊の方々や公益大生に協力を求めるのもよいと思います。

(3) 良さをさらに発展させていきたいと考える事業

4-⑥ 「教科の学習が好きになる授業づくり」示範授業と講演

・生きて働く学力をしっかりとつけるためには、児童生徒の意欲を引き出し、協働的に深く考える授業を行う必要があります。そのために、授業者が、全国レベルの講師が実践している、その教科の本質を味わえるような授業を身近に感じることはとてもよいことです。ぜひ続けていただきたい事業です。コロナ禍で、講師招聘が大変ですが、オンラインで授業をしてくださる先生もおります。

5-⑨「情報教育」とも関連しますが、例えば英語力向上のために、ニュージーランドの日本語教室とオンラインで授業を組むことはどうでしょうか。公益大の武田先生によれば、日本と交流したい学校はとても増えているとのこと。こちら側で、遊佐町の良さを英語で発信し、向こうからは日本語で発信してもらおう。お互いの質問等は、母国語にするなど、アイディアを出し合えば、とても良い授業になります。町内在住のアントニー先生や公益大のエド先生に協力を求めてもいいでしょう。英語は英語圏の人達との交流で使うことで、さらにその良さがわかるはずです。

4-⑧ 「部活動指導員」

・中学校では、部活動も大切な教育活動の一つです。遊佐町では、部活動指導員を通常の中学校の何倍も配置していただいています。実際、地域の指導者が指導した方

が、専門性、継続性の観点から良いことの方が多いようです。

5-⑨ 「情報教育の推進」

- ・これからの時代は、地方であればあるほど、インターネットに堪能であることが大事になると思われます。逆に、インターネット環境が整えば、テレワーク可能な企業から遊佐町の自宅での勤務が可能になるかもしれません。コロナ禍の今、オンラインでの個別相談授業も必要になってきており、小学校の上学年から中学生には一人一台のタブレットが必要になるでしょう。今まで、インターネットの弊害ばかりを大きく取り上げてしまうことが多かったですが、これからはよりよくインターネットを活用していくための教育が必要になってきます。

例えば、遊佐町でおいしい農産物を育て、直接、インターネットで売り出すことができるような若者をたくさん育てていくことが、大切になるはずです。

5-⑩ 「遊佐高支援」

- ・令和2年度、県外入学者が5名入りました。すばらしいことです。町外・県外から人が入ってくることは、そのこと自体がすばらしいです。さらに外の人から「良さ」を言われて、「良さ」を再確認する町民もいるのではないのでしょうか。また、高校があることの良さは、言うまでもありません。ぜひ、県外、町外からの入学生を増やす施策の継続を願います。

6-⑫ 「小中学校の適正整備の推進」

- ・特に学校部会においては、小中ともに一校になることから、これを機に一貫教育を視点に入れて、教育課程を検討したらいかがでしょうか。

例えば、総合的な学習の時間では、旧小学校区毎の学びが今まで以上に大事になることでしょう。地域の子どもが、自分の住んでいる地域の自慢をできるようになってほしいです。コミュニティスクールの良さを生かし、それぞれの学区から地域の先生をお招きして、学びを進めていきます。統合までは、中学校1年生で「地域自慢大会」を行います。そして、良さを共有したら、ツーデーマーチや観光客、修学旅行で沖縄の人へ、前述の英語オンライン授業で外国へ発信します。統合したら、6年生で「自慢大会」をして共有し、中学校で発信、そして課題解決というような時間にしていくことも可能です。四大祭の取り扱いを含めて、検討したいです。

また、学び方について、例えば、中学校で行っている協働的な学習を小学校でも徐々に進めていけば、小中のギャップはさらに低くなりそうです。

9-⑮ 「読書活動の推進」

- ・小中学生の読書量は、近年かなり増えています。その中で、少年議会からの提言を受けて、学びあいスペース、イートインコーナーを設け、全館Wifiの整備を行ったことは、利用者サイドから見ればとても良い取り組みと感じました。

例えば、学校の団体貸し付けを増やすためには、「来月は、こんな本はいかがですか？」とアピールするのはどうでしょうか。今まで貸し出した履歴や、退職された教員に協力いただいて、アドバイスいただくこともできそうです。また、各学校のホームページに町立図書館のホームページをリンクしてもらっただけでも、訪れる保護者、子どもがいるかもしれません。やはり、積極的にアピールする姿勢が大事で

す。

3 おわりに

改めて、事業の企画運営、評価等々、施策に関わられた全ての皆様に感謝と敬意を表したいと思います。一つ一つの事業を見直しながら丁寧に進めることは、とてもエネルギーの必要なことであり、重点的に取り組むべきものを絞って実践されるべきかと考えました。これからも未来を担う若者達が遊佐町ですくすくと育つことを、心より祈っております。

IV 教育委員会の活動状況

1 教育委員会の委員

教育委員会は、政治的中立性を維持しつつ、安定性・持続性を確保して教育行政を管理・執行するため、首長から独立した合議体の執行機関として設置されています。

遊佐町教育委員会は、平成29年10月31日までは、旧制度の移行措置により、町長が議会の同意を得て任命した教育長を含む5人の委員で組織されていましたが、平成29年10月31日の旧制度での教育長の任期満了に伴い新しい教育委員会制度に移行し、新教育長を除く4名の委員で組織しています。

【遊佐町教育委員会委員名簿】

(平成29年11月1日・新教育委員会制度へ移行)

職名	氏名	就任年月日	備考
委員	渡邊 宗谷	平成17年 4月1日	5期目 (～R4.12.31) 第一教育長職務代理者
委員	石川 茂稔	平成23年10月1日	3期目 (～R3.9.30) 第二教育長職務代理者
委員	石山 幸子	平成24年10月1日	3期目 (～R5.9.30)
委員	齊藤 敦子	平成29年10月1日	1期目 (～R3.9.30)
教育長	那須 栄一	平成29年 11月1日	4期目 (～R2.10.31)

*教育委員会は、教育長及び4人の委員をもって組織する(地教行法第3条)。教育長は、教育委員会の会務を総理し、教育委員会を代表する(地教行法第13条)。しかし教育長は、教育委員会の構成員であるが、委員ではない。

2 教育委員会の主な職務権限

- 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること並びに主要な教育施策の確立、変更及び実施に関すること。
- 規則、訓令の制定及び改廃に関すること。
- 不服申し立て及び訴訟に関すること。
- 職員の任免、分限及び懲戒に関すること。
- 学校その他教育機関の設置及び廃止に関すること。
- 通学区域の設定および変更に関すること。
- 教育予算その他、議会の議決を経るべき事件の議案についての意見申出に関すること。
- 教科用図書採択に関すること。
- 準要保護児童の認定に関すること。
- 附属機関の委員の任免、委嘱及び解職に関すること。
- 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関すること。

これらについて、教育委員会会議において審議し、会議以外にも多岐にわたる活動を行っています。

3 総合教育会議の開催状況

(1) 第1回総合教育会議

- ① 期 日：平成31年4月12日（金）
- ② 協議内容：
 - ・遊佐町立小学校適正整備に関する基本方針について

(2) 第2回総合教育会議

- ① 期 日：令和2年2月25日（火）
- ② 協議内容
 - ・遊佐町立小学校新校開校準備委員会の件について
 - ・遊佐高校支援の県外募集の件について
 - ・令和2年度教育委員会重点事業について

4 教育委員会会議の開催状況及び審議内容

令和元年度は、9回の教育委員会会議を開催し、下表のとおり23件の議案について審議しました。

【教育委員会会議の審議件数一覧】

事 項	審議件数	主な内容
教育に関する事務の執行管理基本方針並び評価	4件	令和2年度遊佐町行政の重点目標（学校教育）等
教育委員会規則等の制定及び改廃	5件	遊佐町スクールバス運行管理に関する規則の一部改正等
職員の人事に関する事	2件	令和2年度遊佐町立小中学校教職員の人事案等
議会の議決を経るべき案件の意見申出	0件	
教科書の採択に関する事	3件	令和2年度使用小学校教科用図書及び特別支援学級教科用図書の採択等
附属機関の委員の委嘱及び任命	4件	遊佐町図書館協議会委員の任命等
審議会等への諮問	0件	

要保護及び準要保護児童生徒の認定	5件	要保護及び準要保護児童生徒認定等
その他	0件	
合 計	23件	

5 教育委員会会議以外の活動内容

教育委員は、教育委員会会議以外にも以下のような活動を行いました。

(1) 協議会の開催（9回）

議案審議の前段階として、議案の素案や各施策の審議事項について事務局から報告を受け、各施策の検討及び委員間での協議を行いました。また、議案作成にあたり、事務局に助言や指導も行いました。

(2) 各協議会や研修会等への出席（3回）

庄内市町村教育委員会協議会、山形県市町村教育委員会協議会総会並びに研修大会等へ出席し、自らの研修や文部科学省、山形県教育委員会に対して文教施策に関する要望活動等を行いました。

(3) 学校等への訪問指導（2回）

教育現場（学校と町立図書館等所管の施設）への訪問を行い、運営状況を把握し、活発な意見の交流をしながら、指導や助言を行いました。

今年度は、藤崎小学校の公開研究発表会にも参加し、授業改善の取組への理解を深めました。

(4) その他の行事への出席（35回）

小中学校の卒業式や入学式、記念式典、受賞祝賀会、表彰式等へ出席しました。

上記の他にも、随時事務局と打ち合わせを行って情報の提供を受け、適宜指導や助言を行いました。



V 事業評価点検評価シート

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】① 新規

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I	未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	1	乳幼児期の教育と子育て支援の推進
	施策	2・4	職員の研修、子育て相談や研修の推進

作成：学校指導係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）

- ・幼稚園（認定こども園）や保育園と小学校の教育とを滑らかに接続・発展させるとともに、連携や交流を図ることによって子どもたちの学びと育ちを保障し、いのち輝く子どもを育むために、職員の研修として幼保小担当者研修会を開催する。
- ・適切な就学支援のため、園の巡回相談（健康福祉課）に町教委職員が同行して就学児の実態を把握するとともに、保護者向けの就学相談会を開催する。
- ・発達障がいやその傾向がある児童の保護者、子育てに悩んでいる保護者が、子どものことをより深く理解し、適切な接し方について学ぶ機会を設けるために、ペアレント・トレーニングを開催する。

○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）

- ・第47回遊佐町幼稚園・保育園・小学校担当者研修会の開催【6月25日（火）】
 研修題：「幼保小の連携による接続期の教育の充実」 講師：齋藤雅志 氏
 教育活動の参観：吹浦小学校、吹浦保育園
- ・就学相談会の開催【相談件数：8件】
 9月11日（水）、13日（金）、20日（金）、24日（火）、
 10月1日（火）、7日（月） ※この日程以外にも延べ10回程程度の個別相談あり
- ・ペアレント・トレーニングの開催
 講師 山形県立こころの医療センター 臨床心理士・公認心理師 木村智則 氏
 遊佐町特別支援教育アドバイザー 臨床心理士・公認心理師 須階清佳 氏
 参加者 遊佐町内幼稚園・保育園・小学校の保護者8名
 ① 第1回 ペアトレの基本的な考え方・行動をわける 5月31日（金）
 ② 第2回 ほめることを習慣にしよう 6月14日（金）
 ③ 第3回 好ましくない行動を変える 6月28日（金）
 ④ 第4回 ほめるために待つ 7月12日（金）
 ⑤ 第5回 制限を設ける・今までの復習 7月26日（金）

○成果（特徴的な事項や良かった点など）

- ・幼保小担当者研修会では、講師の先生から4年間継続してご指導いただき、幼保小の連携による接続期の教育の充実のための具体的な方策等について深く学ぶことができた。
- ・ペアレント・トレーニングでは、グループ編成の工夫や開催時期を早める等の工夫を行い、参加者からは前向きな意見や感想をいただき、好評を得ることができた。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

- ・ペアレント・トレーニングは土日開催の希望もあるが、運営や講師の都合により平日開催のみに限らざるを得ない。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・幼保小担当者研修会やペアレント・トレーニングは、今後も継続して実施していく。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】②

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I	未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	1	乳幼児期の教育と子育て支援の推進
	施策	3	給食の充実と食育の推進

作成：総務学事係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）
○町内全ての保育園・幼稚園・小中学校で食育に関する実践が効果的に進められるようにサポートする。 <ul style="list-style-type: none"> ・各学校独自のプログラムによる、食と健康、環境との繋がりを中心とした学習の展開 ・栄養教諭の巡回指導による、食に対する正しい知識や望ましい食習慣に関する学習 ・野菜生産者と連携しながらの給食内容の一層の充実
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）
<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度の県産農産物の使用率 野菜 52.8%、果物 57.9%、生肉 72.2% ・食育推進事業における各学校配当予算 遊佐小 44,000 円、藤崎小・遊佐中 32,000 円、他の小学校 22,000 円
○成果（特徴的な事項や良かった点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・遊佐町は学校給食における県産農作物使用割合が県内で上位である。 ・学校と野菜生産者の連携を密にし、安定した価格での新鮮で安全な食材を仕入れることができ、給食で季節の野菜を豊富に提供することができている。
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・食事の大半は家庭でとることから、家庭と連携した取組みを充実させるため、学校での食育で得た興味・関心を、家庭での実践に繋げていく必要がある。 ・児童数の減少や野菜生産者の高齢化等により、配送や価格の面での課題がある。価格の変更は給食費の単価にも影響するため、生産者との意見交換を行っていく。 ・産直グループのひまわりの会より複数校への納入を検討していただいたが、配送面での課題が多く対応していただくことができなかった。今後も地域おこし協力隊の募集や話し合いをしていく必要がある。
○今後の方向性（内部評価的な判断）
<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたり健康で望ましい食習慣を身につけるために、知識だけでなく実践できる力をつけられるような食育を継続して取り組んでいかなければならない。 ・学区間のネットワークを広げ、野菜を安定して納入できる仕組みを作りたい。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】③

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I 未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	2 コミュニティ・スクールの推進
	施策	1 「学校運営協議会」を活かす学校運営の推進

作成：学校指導係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）																									
<ul style="list-style-type: none"> ・全小中学校に学校運営協議会を設置し、組織や運営体制を構築する。 ・学校運営協議会を機能させ、学校と地域が目標や情報を共有して地域の声を学校運営に生かしたコミュニティ・スクールの推進する。 																									
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）																									
<ul style="list-style-type: none"> ・全小中学校が年3回の学校運営協議会を開催した。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>蕨岡小学校</td> <td>(5/24</td> <td>9/25</td> <td>2/4)</td> </tr> <tr> <td>遊佐小学校</td> <td>(4/25</td> <td>10/24</td> <td>2/17)</td> </tr> <tr> <td>高瀬小学校</td> <td>(6/4</td> <td>10/9</td> <td>2/13)</td> </tr> <tr> <td>吹浦小学校</td> <td>(5/24</td> <td>11/14</td> <td>2/12)</td> </tr> <tr> <td>藤崎小学校</td> <td>(5/24</td> <td>11/29</td> <td>2/7)</td> </tr> <tr> <td>遊佐中学校</td> <td>(6/26</td> <td>11/20</td> <td>1/20)</td> </tr> </table> ・コミュニティ・スクール推進会議の開催（5/27 2/25） 第1回の推進会議では、各学校運営協議会の委員等41名が出席し、模擬熟議を通してコミュニティ・スクールの充実させる研修を行った。第2回の推進会議では、50名が参加し、庄内教育事務所社会教育課の阿部氏より「地域学校協働本部並びに地域学校協働活動推進」についての研修を実施し、次年度以降の取組みについて共通理解を図った。 ・田川小学校長会の研修視察の受け入れ。参加者31名。（11/18） 		蕨岡小学校	(5/24	9/25	2/4)	遊佐小学校	(4/25	10/24	2/17)	高瀬小学校	(6/4	10/9	2/13)	吹浦小学校	(5/24	11/14	2/12)	藤崎小学校	(5/24	11/29	2/7)	遊佐中学校	(6/26	11/20	1/20)
蕨岡小学校	(5/24	9/25	2/4)																						
遊佐小学校	(4/25	10/24	2/17)																						
高瀬小学校	(6/4	10/9	2/13)																						
吹浦小学校	(5/24	11/14	2/12)																						
藤崎小学校	(5/24	11/29	2/7)																						
遊佐中学校	(6/26	11/20	1/20)																						
○成果（特徴的な事項や良かった点など）																									
<ul style="list-style-type: none"> ・各学校ともこれまで積み上げてきた「地域とともにある学校づくり」の良さを引きついで学校運営が行われ、各校の学校運営協議会では活発な熟議が行われた。 ・遊佐町コミュニティ・スクール進捗状況評価【委員による評価】（4よく進んでいる、3概ね進んでいる、2あまり進んでいない、1進んでいない、の平均値） ①円滑な運営 3.5 ②学校目標や課題の共有化 3.6 ③熟議の状況 3.4 ④情報発信 3.3 ⑤教職員への周知 3.5 ⑥保護者への周知 2.8 ⑦地域への周知 2.6 ⑧地域から学校に対する支援 3.4 ⑨保護者から学校に対する支援 3.3 ⑩学校から地域に対する貢献 3.3 ⑪協働の取組み状況 3.4 ⑫管理職と地域のかかわり 3.4 ⑬教職員と地域のかかわり 3.0 ⑭子どもの地域行事への参加 3.3 																									
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）																									
<ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭、地域が課題や情報をさらに共有し、コミュニティ・スクールについて広く町民に周知していく必要がある。 																									
○今後の方向性（内部評価的な判断）																									
<ul style="list-style-type: none"> ・各学校ともコミュニティ・スクールの推進させるための工夫を図る。 ・地域学校協働活動推進員を委嘱し、学校や地域の課題解決に向けて取り組む。 																									

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】④

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I	未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	2	コミュニティ・スクールの推進
	施策	2	学校支援地域活動の推進（学習支援塾）

作成：学校指導係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）

- ・希望する遊佐中学校3年生を対象に、部活動を引退した後の9～2月の毎週土曜日（年20回程度）、スクールバスの運行に合わせて午前中に学習支援塾を開催する。
- ・ねらいは、①「夢の実現に向け、勉強して力をつけよう」：夢の実現（希望進路の実現）のために学習意欲を高め、学習習慣をつける一つの機会となるようにすること、②「講師の先生方に感謝の気持ちで学ぼう」：地域社会が一体となって教育を支える機会とし、地域の先生と触れあうことで、子どもが地域に温かく育てられている実感をもてるようにすること、である。

○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）

- ・参加者：50名（遊佐中3年生105名中）
 - ・講師：11名（元教員1名、英語塾講師1名、遊佐町特別支援教育支援員1名、東北公益文科大学学生8名）
 - ・運営スタッフ：1名（遊佐町特別支援教育支援員）
 - ・会場：生涯学習センター（第1・2研修室、視聴覚室、ボランティアルーム）
 - ・開催回数：13回（9月～2月）
 - ・時間割等：

1時間目	9：00～10：00				
	【移動・休憩】				
2時間目	10：10～11：10				
	【連絡・後片付け・清掃】				
終了	11：20				
- | | 参加者の半分 | | 参加者の半分 | |
|------|----------|----------|----------|----------|
| 1時間目 | 数学
基礎 | 数学
応用 | 英語
基礎 | 英語
応用 |
| 2時間目 | 英語
基礎 | 英語
応用 | 数学
基礎 | 数学
応用 |

○成果（特徴的な事項や良かった点など）

- ・参加者アンケートの結果
よかった（95%）、どちらかというよかった（5%）
- ・受験期の学習に向かう雰囲気づくりと生徒の意欲付けに貢献することができた。
- ・参加者の感想より「土曜日の朝はいつもただらしてしまうけど、学習支援塾があるから勉強を朝から出来て良かった。」など効果を実感している感想がほとんどだった。
- ・講師として昨年度よりも多くの方々にご協力いただき、生徒に個別に対応することができたので、たいへん有り難かった。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

- ・学校行事や会場の都合で、開催できる日が限られる。
- ・東北公益文科大学学生の交通手段の確保が必要である。
- ・充実した学習支援塾にするためには、企画運営する人材の確保が必要である。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・運営方法を工夫しながら、次年度も学習支援塾を開催する。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑤

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I	未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	3	よりよい生き方を育む教育の推進
	施策	3	豊かな感性の涵養（文化芸術の公演）

作成：学校指導係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）
・子どもたちに質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保し、子どもたちの豊かな創造力・想像力や思考力、コミュニケーション能力などを養う。
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）
○町校長会主催 <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年7月3日 遊佐町小学校鑑賞教室（演劇） 公演団体：劇団 民話芸術座 公演演目：「雨ふり小僧 ～君は僕の大切な友だち～」 公演費：400,000円（児童集金1人500円、町補助金175,000円） 参加者：小学校5校の全児童と教職員
○文化庁「文化芸術による子供の育成事業（巡回公演事業）」 <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年7月12日 遊佐町立吹浦小学校 公演団体：公益社団法人 宝生会 公演演目：狂言「柿山伏」と能「黒塚」 参加者：児童77名、教職員15名、保護者等41名・・・合計133名 ・令和元年9月18日 遊佐町立高瀬小学校 公演団体：日本フィルハーモニー交響楽団 公演演目：オーケストラ「日本フィルハーモニー交響楽団」学校公演 参加者：児童85名、教職員15名、保護者等101名・・・合計201名 ・令和元年9月19日 遊佐町立遊佐中学校 公演団体：日本フィルハーモニー交響楽団 公演演目：オーケストラ「日本フィルハーモニー交響楽団」学校公演 参加者：生徒312名、教職員32名、保護者等42名・・・合計386名
○成果（特徴的な事項や良かった点など）
・文化芸術への関心を高め、豊かな感性や創造性を育む機会となった。また、文化庁主催の公演では、楽器の紹介や音楽のしくみの話、体験活動などが取り入れられており、児童生徒にとってたいへん貴重な体験となった。
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）
・町校長会主催の遊佐町小学校鑑賞教室では、年々児童数が減ってきているため、児童集金分の予算が減り、希望する公演団体への依頼が難しくなる可能性がある。 ・文化庁の「文化芸術による子供の育成事業（巡回公演事業）」では、公演団体と学校行事との日程調整が難しい。
○今後の方向性（内部評価的な判断）
・町校長会主催の遊佐町小学校鑑賞教室では、町補助金の増額の必要性を検討する。 ・文化庁の「文化芸術による子供の育成事業（巡回公演事業）」では、応募を継続する。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑥

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I	未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	4	確かな学力を育む教育の推進
	施策	1 2	1 児童生徒理解に基づく学力育成策の確立 2 探究的な学習の推進

作成：学校指導係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）
<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上調査研究委員会を年3回開催し、学力の向上に関わる研修（教科の学習が好きになる授業づくり）や児童生徒の学力の分析を行い、各校の実践を積み上げていく。 ・小学4年生～中学3年生を対象に「遊佐町子どもの声調査」を7・12月に行い、共通した15項目で町全体の児童生徒の実態を把握する（2年目）。 ・町教育委員会委嘱公開研究発表会の実施と各小中学校の授業研究会等での授業改善に向けた指導助言を行う。 ・先進地を訪問し、町内教職員が学力向上にかかわる実践に学ぶ機会を設ける。
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）
<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上調査研究委員会による研修会の実施【7月2日（火）】 講師：田中博史氏 示範授業と講演「教科が好きになる授業～小中連携の視点で～」 ・遊佐町子どもの声調査を7・12月に実施し、集計結果を町校長会、町学力向上調査研究委員会、各校と情報共有して児童生徒の実態を把握し、授業改善等に活かした。 【参考資料2】参照 ・町教育委員会委嘱研究校（藤崎小・高瀬小） 公開研究発表会：藤崎小【10月11日（金）】 研究主題「自立的・協働的に学び続ける子どもをめざして ～生活科・総合的な学習の時間を核にして～」 ・各校の授業研究会や経営訪問等における授業改善に向けた指導（全小中学校） 授業研究会【小中学校6校に13回】、経営訪問【各校年1回】 ・先進地の視察研修の実施 にかほ市立仁賀保中（10月17日）、にかほ市立院内小・金浦小（11月15日）
○成果（特徴的な事項や良かった点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・教科の学習が好きになる授業づくりについて、各校の特色を生かした実践がなされた。特に田中博史氏の研修会では、庄内地区全体から100名以上の教職員の参加があり、これからめざしていきたい授業づくりの姿を共有することができた。 ・子どもの声調査を継続して実施することで、全町的な児童生徒の実態と経年変化の把握をすることができ、各校での取組みの成果と課題を客観的に捉えることができた。 ・公開研究発表会や各校の授業研究会において、児童生徒の主体的な学びを実現するための授業改善に向けた取り組みがなされた。
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学ぶ意欲を引き出し、学ぶ楽しさを味わわせる授業づくりをさらに推進する。 ・文章を読み理解する力（読解力）を客観的に捉える必要がある。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・今後も学ぶ楽しさを味わわせる授業づくりに焦点化するとともに、読解力を含めた学習の基盤となる言語能力のさらなる向上にも力を入れていく。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑦

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I	未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	4	確かな学力を育む教育の推進
	施策	6	特別支援教育の推進

作成：学校指導係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・各校に特別支援教育支援員を配置し、特別な支援を要する児童生徒に対して、学習・生活面の支援を行う。 ・各小学校に特別支援教育アドバイザーを派遣し、特別な支援を必要とする児童の指導について、指導・助言を行う。 ・中学校にスクールカウンセラーを配置し、学校生活を送るうえで課題を抱えている生徒の理解と支援の方策について助言する。 ・児童生徒の特別な教育的ニーズに対応できるよう教職員の研修の機会を充実させる。 	
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育支援員の配置：小学校5校に9名、中学校に3名【計12名】 （7時間45分勤務、年206日） ・特別支援教育アドバイザーの派遣： 定期訪問：各小学校3回ずつ（春・秋・冬）、各学校からの要請による訪問：50回 ・スクールカウンセラーの派遣：中学校に年25回（1回4時間、午後） ・特別支援教育コーディネーター研修会の開催【11月14日、1月9日】 講師：遊佐町特別支援教育アドバイザー 菅原 千鶴 氏（臨床心理士・公認心理師） 遊佐町特別支援教育アドバイザー 須階 清佳 氏（臨床心理士・公認心理師） ・特別支援教育支援員研修会の開催【6月27日、3月25日】 講師：遊佐町特別支援教育アドバイザー 須階 清佳 氏（臨床心理士・公認心理師） ・「校内研修会における特別支援教育に関する研修について」の依頼 遊佐町特別支援教育アドバイザーによる校内研修会の開催依頼と具体的な研修内容について各校と情報共有した。 	
○成果（特徴的な事項や良かった点など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・各校の実情にあわせて1～3名の特別支援教育支援員を配置することで、組織的な対応や一人一人の教育的ニーズに応じた支援が幅広く行われた。 ・特別支援教育アドバイザーによる保護者や学校への適切な助言により、日々の支援や指導に生かすことができた。また、スクールカウンセラーによる生徒のカウンセリングも計画的に実施された。 	
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援体制の整備や教職員の指導力（特別支援教育）の向上を図っていく必要がある。 ・通常の学級における特別な支援を必要とする児童生徒への支援を充実させていくために、今後も人的な支援の充実が必要である。 	
○今後の方向性（内部評価的な判断）	
<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする児童生徒への支援の方法を十分に検討し、特別支援教育支援員の効果的な配置と人的な充実（増員）に努めていく。 	

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑧ 新規

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I	未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	4	確かな学力を育む教育の推進
	施策	8	教職員のゆとり創造と研修の推進

作成：学校指導係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・教員の多忙化の要因の一つとなっている部活動の指導について、教職員の働き方改革の取組みの一つとして、部活動指導員を配置することにより、部活動を担当する教員の支援を行う。 ・平成30年3月スポーツ庁にて策定された「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」及び平成30年12月文化庁にて策定された「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」、平成30年12月県教育庁スポーツ保健課にて策定された「山形県における運動部活動の在り方に関する方針」に則り、スポーツ・文化活動の環境を整えるために配慮すべき事項を「遊佐町中学校部活動等ガイドライン」として策定し、関係者等の啓発に資する。 ・学校事務の連携・共同実施を行うことで、小中学校の学校間の連携を強化し、相互に支援したりすることにより、効率的・効果的な事務処理体制の確立と事務職員の資質向上を図り、学校運営を支える機能を充実させ、地域や学校教育活動の活性化につなげる。 	
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校部活動指導員の配置【4名】 <ul style="list-style-type: none"> ソフトボール部 年160日（総計375時間） 柔道部 年76日（総計171時間） 卓球部 年69日（総計182時間） ソフトテニス部 年50日（総計144時間） ・遊佐町中学校部活動等ガイドラインの策定 <ul style="list-style-type: none"> 4月1日に中学校へ通知、4月27日にPTA総会にてガイドラインの説明 ※平成30年度中に教職員・保護者・外部指導者・スポ少関係者との意見交換会を開催 ・学校事務の連携・共同実施 <ul style="list-style-type: none"> 拠点校：遊佐小、連携校：蕨岡小、高瀬小、吹浦小、藤崎小、遊佐中 遊佐町小中学校事務の連携・共同実施要項の策定 連携・共同実施運営協議会の開催（9/19,11/6,12/3,1/15,2/25,3/6） 	
○成果（特徴的な事項や良かった点など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校部活動指導員の配置により、該当する部活動を担当する教員の負担が軽減された。 ・学校事務の連携・共同実施では、個々の得意分野を活かすことで他の負担が軽減され、経験の浅い方にとっては相談できる体制ができ、成果が上がっている。 	
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校部活動指導員について、統括的な役割をする方の人材の確保が必要である。 ・遊佐町中学校部活動等ガイドラインの外部指導者に対する啓発は今後も必要である。 	
○今後の方向性（内部評価的な判断）	
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校部活動指導員の配置は継続と充実を図り、遊佐町中学校部活動等ガイドラインに関する啓発等も継続する。 ・学校事務の連携・共同実施については、県のモデル校として取組みを継続する。 	

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑩

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I	未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	5	変化に対応する力を育む教育の推進
	施策	3	高校や大学等との連携の推進

作成：総務学事係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）	
<p>遊佐高校支援の会（事務局：教育課総務学事係）に町が補助金を交付し（財源はふるさと納税）、同会が事業主体となって各種支援事業を実施した。</p> <p>①介護職員初任者研修受講支援金（受講料3万円に対し、2万5千円を給付）</p> <p>②進路指導補助費（PTA活動維持のため生徒減によるPTA会費減収分を支援）</p> <p>③学習活動支援費（校外学習や企業説明会等の際の移動バス借上げ料等の支援）</p> <p>④キャリアアップ支援（普通自動車運転免許取得に対し、6万円を給付）</p> <p>⑤通学支援（公共交通機関による通学が困難な生徒を対象に登下校のタクシー運行）</p> <p>⑥就学支援金（入学予定者に対し、7万円を給付）</p> <p>⑦教育振興補助金（体育振興及び文化交流事業 ※総務課所管補助金を統合）</p> <p>⑧県外からの志願者支援（地域みらい留学での東京、名古屋、大阪、福岡における説明会の開催、夏休み中の遊佐町&遊佐高校自然体験プログラムの実施、遊佐高校の志願者確保のための遊佐町自然体験留学生の募集、空き家を活用した留学生居住住宅の整備）</p> <p>⑨事業推進費（支援事業周知ポスター、チラシ作成、消耗品、振込手数料等）</p>	
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）	
<p>①介護職員初任者研修受講支援金 300,000円（12人）</p> <p>②進路指導補助費 486,000円（遊佐高校後援会へ給付）</p> <p>③学習活動支援費 481,180円（移動バス代等6件）</p> <p>④キャリアアップ支援 1,380,000円（23人）</p> <p>⑤通学支援運行費 4,137,490円（3路線 利用生徒19人）</p> <p>※利用者負担金 529,500円（運行費に充当）</p> <p>⑥就学支援金 2,310,000円（令和2年度入学予定者33人）</p> <p>⑦教育振興補助金 585,000円（体育振興・文化交流）</p> <p>⑧県外志願者支援 5,521,274円（県外入学予定者5人）</p> <p>⑨事業推進費 176,250円（ポスター、チラシ、振込手数料等）</p> <p>合計 15,377,194円</p>	
○成果（特徴的な事項や良かった点など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度入学者選抜試験に推薦を含めて35人の志願者があり、全員が合格し、入学した。 ・県外入学者は、男子3人、女子2人、計5人であった。 	
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・県外入学者について、空き家を活用した住宅に居住してもらっているが、部屋数が限られており来年度の県外入学者の入居は難しい。正式な男子寮、女子寮の整備が課題である。 	

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・入学者が2年続けて定員40人の半数を下回った場合、その2年後に募集停止になるというルールが緩和される方向で、高校の魅力化に向けた協議会の設置や2年続けて定員の半数を下回っても自治体と協議するなど方向性が示された。今後、県外入学者の安定した確保のために、男子寮及び女子寮の整備が必要である。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

- ・スタッフ人数が少ない教室もあるため、スタッフの確保が課題となっている。
- ・令和2年度より藤崎小学校区で2つの放課後子ども教室の開設となる。同じ小学校区のため、両教室の交流を検討したい。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・研修だけのスタッフ研修会でなく、各教室の情報交換も含めた研修会を実施する。
- ・健康福祉課と連携し、4年後の小学校の統合新校開設による放課後児童クラブや放課後子ども教室の在り方について検討する必要がある。
- ・今後も継続して運営していくために、新規スタッフの確保に努める。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑫

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I	未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	6	教育環境の整備の推進
	施策	4	小中学校の適正整備の推進

作成：総務学事係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年4月12日の遊佐町教育委員会会議において、「遊佐町立小学校適正整備に関する基本方針」が議決されましたが、この基本方針に則り、2023（令和5）年4月1日の町内5小学校の統合新小学校の開校に向けて、「遊佐町立小学校新校開校準備委員会」が設置された。 ・7月19日に理事会、8月8日に総会および3つの部会である総務部会、PTA部会、学校部会が開催され、具体的な協議が始められた。 ・理事23名、委員35名、計58名（各地区、各小学校のPTA、各小学校の教職員、各保育園・幼稚園の保護者会から推薦された方及び識見者） 	
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・「遊佐町立小学校新校開校準備委員会」 <ul style="list-style-type: none"> 理 事 会：3回開催（これまでの経緯、今後の進め方、各部会報告・課題確認、校名、スクールカラーの決議） 総 会：2回開催（これまでの経緯、今後の進め方、各部会の理事会確認事項の共通理解及び今後の方針） 総務部会：6回開催（校舎、教室、駐車場、校名、校歌、校章の検討、校名の募集、校名、スクールカラーの選定、プラスルームの校舎を視察） PTA部会：5回開催（体育着の検討、PTAの規約の検討） 学校部会：5回開催（教育課程の検討） 	
○成果（特徴的な事項や良かった点など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・「遊佐町立小学校新校開校準備委員会」を設置し、総務部会、PTA部会、学校部会の3つの部会でそれぞれ協議を進めることができた。 ・統合新小学校の校名について町民から募集し、231のご応募をいただき、校名について「遊佐町立遊佐小学校」ということで決議した。スクールカラーについても、子どもたちを育む晴れわたる鳥海山や月光川の清流、湧水や日本海などをイメージした「青色」に決定した。 	
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・協議内容と町の予算との整合性を取っていくこと。 ・人事異動等により、理事、委員が替わってしまうことで、これまでの協議の共通理解を図る必要があること。 	
○今後の方向性（内部評価的な判断）	
<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年4月1日以降の統合新小学校の開校に向けて、スムーズに統合することができるように、「遊佐町立小学校新校開校準備委員会」において協議し、決議していく。 	

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑬

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I 未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	7 青少年の健全育成
	施策	1 社会参加を促す活動の推進

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）

●少年町長・少年議員公選事業

町内に在住・在学の中高生を対象とし、全員が少年町長・少年議員の選挙権と被選挙権を有す。有権者（中高生）の中から立候補者を募集し、有権者の投票により、町の若者の代表として少年町長・少年議員を選出する。選出された少年町長・少年議員が有権者の声を参考に、町への要望や少年議会独自の政策を立案し、少年議会の場で一般質問や政策提言を行う。

また、政策を提言するだけでなく、政策実現予算（45万円）を活用し、実際に政策実現のために活動することで少年町長・少年議員個人の成長だけでなく、若者の社会参加を促進する。

○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）

- ・当初予算額：450,000円 決算額：450,000円
- ※第17期遊佐町少年議会政策施行事業委託料
- ・有権者数：695名（昨年度722名）
- ・有権者アンケートで意見を出した人数：558名（昨年度530名）
- ・立候補者：10名（中学生5名、高校生5名）
- ※町長1名（定員1）、議員9名（定員10）
- ・提言政策
 - ①意見交換会の実施

10月1日に遊佐町議会議員と、10月20日には東北公益文科大学の学生との意見交換会を実施した。
 - ②第7回ゆざミュージックフェスティバルの開催

平成28年に行って以来3年ぶりにゆざミュージックフェスティバルを開催した。
 - ③少年議会便りの発行

少年議会便りを9月15日号、11月15日号、1月15日号と年3回発行した。

○成果（特徴的な事項や良かった点など）

- ・学業や部活動との両立を図りながらの全員協議会の開催となったが、全12回の開催で平均参加人数が8人と高かった。
- ・意見交換会は少年議会が発足して以来、初めての政策となった。来期に繋がる意見がたくさん出る場となったので来期以降、規模を大きくして交流の場を増やす。
- ・初めて小学校（高瀬小6年生）を対象とした事業説明を行った。来年度から少年議会に参加することができるという自覚と事業についての興味を惹くことができた。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

- ・少年議会に参加している人以外の有権者に政策を知ってもらうためにアンケートに政策内容を盛り込むなどの紹介の場を作る。
- ・政策実現をする際の一人に対する作業量の負担が掛かりすぎてしまった。少年町長を中心に少年議員全員に仕事を分散できるような体制を整えていく。
- ・全員協議会の際の中学生と高校生の間にあるやる気の差を埋める。
- ・全小学校での事業説明が出来るように日程調整を進める。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・立候補者の学校に偏りが見られるので、各学校長と担当教諭に少年議会に対する理解をもっと高めてもらう。
- ・少年議会卒業後も町に残る少年議会のメンバーには引き続きボランティアやおもしろラボ事業に携わってもらう。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑭

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	I 未来にはばたく「いのち」輝く子どもの育成
	基本施策	7 青少年の健全育成
	施策	3 地域全体で育む活動の推進

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）
<p>●子育てフォーラム開催事業</p> <p>青少年育成協議会と遊佐町PTA連絡協議会との共催で、11月9日（土）に実施した。町の教育の基本目標を基軸に、「未来にはばたく『いのち』輝く子どもの育成」をテーマとしており、PTAや地域の活動、中高生の意見発表などを組み込みながら、意義深いフォーラム内容にするための工夫を施している。</p>
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）
<p>・子育てフォーラム参加者</p> <p>令和元年度 413名参加（他事務局8、託児保育士3）</p> <p>内訳： PTA連絡協議会会員（教職員含む） 160名</p> <p> 青少年後援団体 94名</p> <p> 一般（発表者、幼・保） 159名</p>
○成果（特徴的な事項や良かった点など）
<p>・第2次教育振興基本計画における「はぐくむ子ども像」に基づいて、大会スローガンを「ふるさとに学び未来につなぐ子どもたち」と掲げ、遊佐中学校吹奏楽部16名によるオープニング演奏、「早起き・朝ごはん・躍動・早寝」運動の標語優秀作品の発表や遊佐中学校1年生による「地域貢献運動の紹介」に続き、県外からの入学生受け入れ活動に取り組んだ『来ちゃいなよ、ゆざこう』の紹介を町民に向け発信した。</p> <p>・『朝の読書』等の活発な読書活動が、平成31年度の「子どもの読書活動優秀実践校」として選ばれ、「文部科学大臣賞」を受賞した遊佐高等学校の事例発表も行われ、ふるさとを愛し、未来にはばたく「いのち」輝く子ども達のそれぞれの取組みを紹介した。</p> <p>・遊佐町青少年育成協議会では、「早起き・朝ごはん・躍動・早寝」運動啓発ポスターを作成し、各小中学校、各まちづくりセンターに掲示するとともに、通学バスへの掲示も実施した。チラシに関しては、次年度教育委員会報と同時に各世帯に配布する。</p> <p>・今年度は、俳優の渡辺徹さんをお迎えし、子どもたちが夢を持つ大切さやいじめ問題や子育て環境について持論を展開してもらい、多くの参加者から、子どもとの向き合い方、コミュニケーションの大切さについて関心を寄せた感想が多かった。</p> <p> 演題「夢持つ大切さ」</p> <p> 講師：俳優 渡辺 徹 氏</p> <p>・昨年に続き、遊佐高校の遊佐町との連携に関する取組事例を発表。全国でも珍しい「来ちゃいなよ、ゆざこう」の取組みで、学校存続のための活動により成長していく生徒の姿を知ることができたことは貴重な機会となった。</p> <p>・中学生、高校生の意見発表には、子どもたちの様子や考えを聞く貴重な機会、遊佐町のことをしっかり考えていることを改めて知った、初めて知った、感動した、今後の活動も期</p>

待している、などの意見が多かった。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

- ・毎年子育て世代の参加が少なく、参加しても一部で帰ってしまう父兄が多かった。今回も終わってみれば「良かった」と感じる一方で、保護者への声掛けや周知の仕方がさらに課題となった。
- ・町内在住者を優先としていたため、整理券の発行枚数が思いのほか少なかった。当日は、酒田、鶴岡からの聴講者もおおり、広く呼掛けする必要があると実行委員会の意見があった。フォーラムの3ヶ月前にはPTAに周知をし、申込み期間を1か月程度行い、その後町内外に関わらず一般への周知をしていくことを検討していく。
- ・「子育てフォーラム」の名称は、PTA等に限られていると思われ、地域の方々の参加にもつながっていない。事業名の変更を検討「未来フォーラム」など。
- ・事業を把握している職員が不足していて、当日の準備、駐車場、受付等スタッフに混乱があったため、職員を増員して対応する。
- ・遊佐中学校吹奏楽部のオープニングセレモニーはかなり好評だったが、次年度の午前9時からの開催に対応できるか課題になる。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・令和2年度は「庄内地域人権フォーラム」と同時開催を進めていく。「地域子育て」に焦点を絞りながらテーマを検討し、状況の変化とともに形を変え工夫を加えながら実施していく。
- ・アンケートの意見・感想により、子育てフォーラムは中高校生の研究・活動を、町民が知ることができる良い機会となっていることがわかる。各学校単位だけでなく、地域全体で子どもの成長を願うフォーラムとして位置づけを行っていく。
- ・コミュニティ・スクール制度について事例発表を行い、家庭・地域との共存意識と互いの責任を持って取り組む自覚意識の啓発の場としていく。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑮

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ	心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	9	生涯学習の基礎的環境づくり
	施策	2	読書活動の推進

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）	
<p>【図書館運営事業】 <指定管理者からの実績報告より></p> <p>子どもの読書活動への取り組み（「子ども読書活動推進計画」実施状況）</p> <p>○ハイはい絵本（対象：9～10か月の赤ちゃんとその保護者）</p> <p>事業内容：9～10か月児育児相談時に絵本の贈呈、図書館事業の説明、絵本の読み聞かせを実施</p> <p>実施回数：6回 参加者59組（R1 6回 参加者75組）</p> <p>○わくわくらんど（対象：0～3歳児とその保護者）</p> <p>事業内容：乳幼児向けおはなし会</p> <p>実施回数：10回 参加者128人（R1 11回 参加者211人）</p> <p>○おはなしわーど（対象：幼児・小学生）</p> <p>事業内容：幼児・小学生向けおはなし会</p> <p>実施回数：11回 参加者260人（R1 12回 参加者164名）</p> <p>○おはなしの部屋（対象：小中学生・一般）</p> <p>事業内容：「とんぴんかだりの会」会員による遊佐の方言での昔語り</p> <p>実施回数：12回（R1 22回）</p> <p>（遊佐中学校2回、藤崎小学校3回、吹浦小学校2回、ほか町外保育所など5回）</p> <p>参加者376名（R1 707名）</p> <p>○読書感想画展（対象：町内幼稚園・保育園年長児）</p> <p>事業内容：年長児から、好きな絵本の感想を絵で表現してもらい展示する。</p> <p>実施回数：1回 出品者：70名（R1 実施回数：1回 出品者：74名）</p> <p>○「親子で選ぶ一冊」（対象 町内小学校一年生とその保護者）</p> <p>事業内容：国語教科に関連した10冊の絵本の中から、親子で好きな1冊を選んでもらい贈呈する</p> <p>贈呈人数：5小学校、81名（R1 79名）</p> <p>○遊佐町こども川柳チャレンジ大会（対象：小学生）</p> <p>事業目的：川柳をとおして活字に親しみ、読書意欲を育むきっかけをつくる</p> <p>事業内容：川柳募集と川柳講座、作品展示</p> <p>実施回数：1回 応募者245名 555作品（R1 応募者142名 316作品）</p> <p>○ゴールデンウィーク特別おはなし会</p> <p>事業内容：幼児、小学生向けおはなし会</p> <p>実施回数：2日間 参加者：70名（R1 61名）</p> <p>○図書館クイズ～12のなぞ～</p> <p>実施回数：5日間 参加者35名（R1 7日間 参加者：62名）</p> <p>○夜の図書館（ブックナイトライブ）（対象：小中学校学年PTA、地区子ども会）</p>	

事業目的：夜間貸切開館を行い、家族と一緒に図書館に来館することで、本や図書館に親しむきっかけをつくる

事業内容：昔語り、DVD上映会、図書の貸出返却、図書館探検

実施回数：3回 参加者89名 (R1 5回 参加者149名)

○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）

・利便性の向上について

*開館日数：328日 *開館時間の延長：4月～10月 午前9時30分から午後7時

*休館日：第1・3月曜日、年末年始、蔵書点検日（休館日は月2回のみ）

・児童生徒（0歳～18歳）の年間利用状況

*実績 平成26年度 利用人数：3,459人 貸出冊数：13,904冊

平成27年度 利用人数：3,207人 貸出冊数：12,767冊

平成28年度 利用人数：3,348人 貸出冊数：12,968冊

平成29年度 利用人数：3,047人 貸出冊数：12,101冊

平成30年度 利用人数：2,982人 貸出冊数：11,583冊

令和元年度 利用人数：2,682人 貸出冊数：11,181冊

*令和元年度町立図書館利用状況は【参考資料3】参照

○成果（特徴的な事項や良かった点など）

・「学び合いスペース」を開設し1年経過した。図書館協議会の意見も踏まえ、施設整備として一部イートインコーナーを設け、全館WI-FIの整備を行い、若者が文献とインターネット両方から学べるように環境を整えた。

・図書館協議会による遊佐町子ども読書活動推進計画の評価を行った。町立図書館における数値目標の検証、学校の読書活動アンケート調査結果による現状把握を基に審議された。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

・学校、家庭、地域が連携して読書活動を推進する必要がある。図書館の役割として、学校や各地区まちづくりセンターへの団体貸し付けの回数を増やすなど出張利用について積極的にPRしていく必要がある。

・少子化及び未満児の保育が増加しているため、平日、図書館を利用する親子やおはなし会への参加者数が年々減少傾向にある。今後も子どもセンターと連携し、おはなし会（わくわくらんど）など、出張利用を進めていく必要がある。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

・図書館内のLED化更新に向け準備を進める。これまで照度が充分でなかった館内全体を調査し、心地良く読書ができるよう整備をしていく。

・学び合い・教え合いスペースの活用が、図書館の利便性の向上と利用拡大につながるよう、なお一層の周知活動を図る。

・「遊佐町子ども読書活動推進計画（二次計画）」策定に向けて、学校・幼・保との連携のもとで、図書館協議会と図書主任会にて協議・検討を行う。

・対象者ごとの事業の見直しを図る。特にブックスタートとなる「ハイはい絵本」については、9カ月健診での実施は遅いため、健康福祉課と協議して3か月健診時に実施できるよう調整していく。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑯

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ 心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	9 生涯学習の基礎的環境づくり
	施策	3 家庭・学校・地域の連携

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）
<p>●家庭教育講座の開催</p> <p>【やまがた子育て講座】</p> <p>すべての保護者への学習機会や情報の提供、相談体制の充実、家庭教育に関する学習機会の効果的な提供を支援する。対象：小学校 PTA（5校） 中学校 PTA（1校）</p> <p>【幼児共育ふれあい広場】</p> <p>保育園等において、人やもの、自然とのかかわりを重視した親子の体験的な活動等の提供を支援する。対象：保育園保護者（3園）子どもセンターに関わる保護者</p>
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）
<p>【やまがた子育て講座】</p> <p>6月29日「子どもの健康な育ちを支えるために」（藤崎小学校 PTA） 講師：県家庭教育アドバイザー 佐藤 節子 氏</p> <p>7月 4日「生命誕生、異性への理解と尊重」（遊佐中学校生徒 教職員 保護者） 講師：県家庭教育アドバイザー 後藤 敬子 氏</p> <p>10月17日「上手に子育て いきいき L I F E」（高瀬小学校 PTA） 講師：県家庭教育アドバイザー 遠田 裕子 氏</p> <p>11月29日「生命誕生、命の大切さ、相手を思いやる大切さ」（蕨岡小 P T A） 講師：県家庭教育アドバイザー 後藤 敬子 氏</p> <p>1月25日「自分が好き、友達が好き、ふるさとが好きな子どもを育てるために 今できること」（吹浦小学校 PTA） 講師：県家庭教育アドバイザー 遠田 裕子 氏</p>
○成果（特徴的な事項や良かった点など）
<p>【やまがた子育て講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年に比べ小学校で2校、子育て講座を実施する学校が増えた。 <p>【幼児共育ふれあい広場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年同様すべての保育園と子どもセンターで講座を開催することができた。
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・「やまがた子育て講座」を小中学校（6校）での開催を予定していたが、5校のみの開催に終わった。引き続き丁寧に事業の趣旨説明を行い、すべての小中学校での「やまがた子育て講座」の開催を実現したい。
○今後の方向性（内部評価的な判断）
<ul style="list-style-type: none"> ・「やまがた子育て講座」を継続して実施し、全小中学校で開催する。 ・学校、保育園等だけでなくまちづくり協会等の各関係機関との連携により、地域の教育力の向上につながる研修機会の充実につなげていく。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑰

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ	心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	10	多様な生涯学習機会の提供
	施策	2	現代的な課題への学習機会の提供

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）

●協働のまちづくり研修会開催事業

平成30年3月に策定した「遊佐町生涯学習推進計画」を踏まえ、町民参画による持続可能な活力あるまちづくり・地域づくりを進めるための協働による学びを推進しようと、学校・まちづくり関係者が一堂に会して地域づくり研修会を実施するもの。

今年度は、事業未実施となった。

●男女（みんな）のセミナー事業

「男女共同による住民主体の福祉まちづくり」をテーマとし、参加者同士で学び合い、一人ひとりの意識を育むことをねらいとし、講話の後に、グループワークにて話し合いを行った。グループワークでは、「女性も男性もみんなが参画しやすい福祉まちづくり、地域づくりとは」をテーマに、ご自身の地域の福祉まちづくりの取り組みや現状をふりかえり、さらに多様な住民が参画しやすくするための工夫やアイデアを考え、共有した。

講演：「男女共同による住民主体の福祉まちづくり」

～育てよう男女（みんな）の意識～

講師：東北公益文科大学 地域共創センター長

〃 ニュージーランド研究所所長

武田 真理子 氏

○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）

●協働のまちづくり研修会開催事業

・未実施

●男女（みんな）のセミナー事業

・期日：8月19日（月）

・参加人数：80名（男性10名・女性70名）

○成果（特徴的な事項や良かった点など）

・男女のセミナーでは東北公益文科大学の武田真理子先生により、「男女共同による住民主体の福祉まちづくり」について学んだ。地域社会が直面している課題や自分たちにできることなどの講話を受けた後、「女性も男性もみんなが参画できる福祉まちづくり、地域づくり」について意見を出し合った。ワークショップの時間が短かったが、全員が意見を言えるし、ほかの意見も十分聴くことができる貴重な機会であった。「あいさつ」「声かけ」などの行動が、福祉のまちづくりにも繋がりに、すぐに取り組みたいという感想が多かった。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

- ・人口減少社会のなか、地域課題を共有する地区間交流・世代間交流の創出機会が求められている。このため、身近な地域課題に照らし、様々な研修会を通して、協働のまちづくり意識の向上とネットワークづくりにつなげていく必要がある。同じメンバーでの研修会が多く開催されているが、協働での学びという観点から他の研修会とはすみ分けをして実施する必要がある。
- ・男女共同参画への男性の出席は 10 名で、昨年（3 名）よりは多かった。女性が多いため居心地の悪そうな男性もいた一方で、グループに馴染んでいる男性もあり、男女の地域での役割を決めなくとも、同じ目線で地域を考えていくことが重要だと感じた。引き続き男性の参加を促していく必要がある。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・協働のまちづくり研修会は今年度開催することが出来なかったが、次年度は早めに開催していく。地域課題に照らし、学校・地域が協働して取り組んでいくための地区間交流は重要である。今後は企画係と連携して定期的に行き開催し、実践に活かすためのプロセスにも踏み込んでいきたい。
- ・地域からより多くの若者の参加を促すとともに、学生の参加も得られるよう企画する。
- ・男女がともに地域参画する意識醸成とリーダー育成につながる題材や研修のあり方を計画していく。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑱

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ 心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	1 1 次世代につなぐ地域活動の推進
	施策	1 地域教育力の向上（学び合い・教え合い）

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）

- ゆざオモシロラボ（旧ユースセミナー実行委員会）支援
町内の若者（20～39歳）から会員を募り、会員同士の交流や主催イベントの企画・運営などを通して幅広い交流を図る。
- 二十歳のつどい実行委員会
成人としての自覚の節目となる成人式式典（町主催）への協力と、式典後に実行委員会で主催する交流の場として、「二十歳のつどい」の企画・運営を行う。二十歳のつどいでは進学や就職で地元を離れた同級生同士の交流を図る。

○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）

- ①ゆざオモシロラボ（旧ユースセミナー実行委員会）支援
 - ・会員数：9名
 - ・会議・打合せ：3回
 - ・主な活動
 - (1)出張サンタ企画 12月22日（日）町内 10件申込
 - ・自主企画以外の活動
 - (1)第二回岩牡蠣まつり in 吹浦（スタッフ協力）8月4日（日） 2名協力
- ②二十歳のつどい実行委員会
 - ・実行委員：8名（男：5名 女：3名）
 - ・会議・打合せ：8回（リハーサル、検討会を含む）
 - ・参加者：99名（式典） ※該当者111名
110名（つどい） ※新成人97名、来賓13名

○成果（特徴的な事項や良かった点など）

- ①ゆざオモシロラボ（旧ユースセミナー実行委員会）支援
 - ・ユースセミナー実行委員会から名称が変更となり3年目を迎えた。自主企画であったサンタ企画が幼稚園、保育園へ直接訪問しての周知により理解を得てもらい、前年度の申込みが3件だったのに対して今年度は10件と好評だった。
- ②二十歳のつどい実行委員会
 - ・昨年度に引き続き、来賓として中学校と小学校の恩師を招待したことが、成人者から好評だった。実行委員会を進める中で懇親会を挟んだことにより、実行委員会の雰囲気が良くなり、意見が活発に交わされていた。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

①ゆざオモシロラボ（旧ユースセミナー実行委員会）支援

- ・会員自体の数が少なく、会議で集まれる人数にも限りがあった。そのため自主企画が前年度に比べて大きく減ってしまった。企画が少数の意見に偏らないように、会議日程を調整して全員の意見を拾えるような取組を進めるよう心がける。

②二十歳のつどい実行委員会

- ・二十歳のつどいパーティー開催前、保護者が業者を呼んで写真撮影をし、開始時間が遅れる事態となってしまった。（事務局への連絡はなし）実行委員との連携を密にし、情報共有を図り、成人者が満足いくようスムーズな進行を心がける。
- ・実行委員の募集について、応募しても立候補者は出てこないため、事務局で声かけをする状況である。実行委員については早めの声かけ、別の募集方法の検討が必要である。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

①ゆざオモシロラボ（旧ユースセミナー実行委員会）支援

- ・会員自体の数が少なく、開催できる企画に限りがあった。来年度以降、会員数を増やすために卒業後に町内に残る少年議会やくじらのメンバーへの声掛けを行う必要がある。

②二十歳のつどい実行委員会

- ・二十歳のつどい実行委員として協力いただいた成人者が、今回の実行委員会だけで終わるのではなく、今後、遊佐町とつながっていくような仕掛けを検討していきたい。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑱

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ	心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	1 1	次世代につなぐ地域活動の推進
	施策	2	地域まちづくり活動の活性化（1）

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）													
<p>●生涯学習まちづくり出前講座事業</p> <p>町民が興味や関心を持って学習したい内容を、町職員等が地域のまちづくりセンターや集落公民館の要請に応える形で、わかりやすく講話（説明）し、意見の交流を交えながら学習し、地域づくりに生かしていく。</p> <p>*平日・休日を問わず、午前9時から午後9時までの時間帯で派遣実施できる。</p>													
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）													
<p>実績の年度経過（実施回数）</p> <table border="0"> <tr> <td>平成28年度</td> <td>68回</td> <td>令和元年度</td> <td>52回</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>65回</td> <td></td> <td>(新型コロナ報道以降実施希望なし)</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>63回</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p align="right">※講座名及び令和元年度実績は【参考資料4】のとおり。</p>		平成28年度	68回	令和元年度	52回	平成29年度	65回		(新型コロナ報道以降実施希望なし)	平成30年度	63回		
平成28年度	68回	令和元年度	52回										
平成29年度	65回		(新型コロナ報道以降実施希望なし)										
平成30年度	63回												
○成果（特徴的な事項や良かった点など）													
<ul style="list-style-type: none"> ・毎年継続利用している団体は、内容についても講師との間で調整がなされ、参加者の評価が高い。 ・ここ数年、健康・防災に関する講座の活用が全体の半数以上を占めている。その中でジオパーク推進として、町のバスで町内ポイント巡りが実施された。遊佐町の素晴らしさを町民に発信する良い機会となった。 ・遊佐高校での活用が定着し、生徒が遊佐町についての理解を深める貴重な場になっている。 													
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）													
<ul style="list-style-type: none"> ・新規で出前講座を利用する団体が少ない。生涯学習センターだよりも利用促進の記事を掲載したが、まだまだPR不足が否めない。各まちセンと連携を取った上で周知をし、利用団体拡大を図る。 													
○今後の方向性（内部評価的な判断）													
<ul style="list-style-type: none"> ・区長会議などの企画担当者に直接説明を行い、理解を深めてもらう必要がある。 ・高校生に対する活用事例を中学校に紹介し、中学生に対しての活用を促す。 ・毎年4月の広報だけでなく、定期的に広報へ出前講座の記事を掲載し、現利用者の満足の声を広げて、利用拡大の呼びかけを強化する。 													

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑳

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ	心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	1 1	次世代につなぐ地域活動の推進
	施策	2	地域まちづくり活動の活性化(2)

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）
<p>●ゆざエブリワーズ・カレッジ 2019</p> <p>多様な生涯学習のニーズを考慮した学習機会の充実を図る。幅広い年代における生きがいと仲間づくりなどを目指し、地域の特性と人材を生かした各種講座を実施する。</p>
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）
<ul style="list-style-type: none"> ・実施期間：6月29日（土）～12月11日（水） ・対象者：町内在住・在勤の方 ・申込者数：40名 ※途中参加者を含む ・実施講座 <ul style="list-style-type: none"> ①野菜ソムリエと一緒に作るお手軽料理講座 全3回（7月16日、9月10日、12月11日） 延べ38名参加 ②暮らしを彩るハンディクラフト講座 全3回（6月29日、10月19日、12月7日） 延べ31名参加 ③スポーツでリフレッシュ講座 全1回（10月14日） 延べ10名参加
○成果（特徴的な事項や良かった点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・講座で知り合った受講生同士が、講座外で集まって講師が行う事業に参加するなどして、講座で得た知識の利用や、講座での繋がりが生まれているようだった。 ・新規講座であったハンディクラフト講座の参加者から、継続を望む声が多かった。来年度も講座の内容を変える等の工夫を凝らして参加者の確保を狙う。
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ講座での周知が行き届かず、ギリギリになっての募集になってしまった。関係団体との連携を図り、早めの周知を心掛ける必要がある。
○今後の方向性（内部評価的な判断）
<ul style="list-style-type: none"> ・講座での成果を披露するための場所を作り、受講生の講座に対する満足感の向上に繋げる。同時に、冬期間の生涯学習センターの展示が少ないことも考慮して、生涯学習センターの来館者向上も狙う。 ・昨年度より芸術文化団体に加入した「蓮の会」と連携した新たな講座をスタートさせ、団体への新規加入者の拡大と講座を通じた交流を深めてもらう。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑳

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ	心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	1 2	うるおいに満ちた芸術文化活動の推進
	施策	2	芸術文化作品鑑賞機会の提供

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）
<ul style="list-style-type: none"> ・第 48 回遊佐町芸術祭開催 町内の芸術文化振興のために、遊佐町芸術文化協会と共催して実行委員会を設立し、委員の意見を取り入れながら開催。 ・講演会や各種鑑賞機会の提供 10月3日（木）ファルカシュ・ガーボルピアノリサイタル 10月4日（金）ファルカシュ・ガーボルスクールコンサート 2月29日（土）飯森範親&山形交響楽団 春待ちコンサート
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）
<ul style="list-style-type: none"> ・第 48 回遊佐町芸術祭（参加団体 13 団体） 決算：80,000 円（補助金） 開幕式典：10月6日（日） ステージ部門：10月6日（日）～12月22日（日） 展示部門：①10月6日（日）～13日（日） ②11月10日（日）～17日（日） 閉幕式典：12月13日（金） ・ファルカシュ・ガーボルピアノリサイタル 342 名来場 ・ファルカシュ・ガーボルスクールコンサート 約 320 名（遊佐中学校教員・生徒） ・飯森範親&山形交響楽団 春待ちコンサート 中止（新型コロナウイルス感染防止）
○成果（特徴的な事項や良かった点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、子ども会員がいる C-Dreams とスマイルキッズが芸術文化協会に入会した。 ・日本・ハンガリー外交関係開設 150 周年記念ということで、ハンガリーアーティストのファルカシュ・ガーボル氏を招き、ピアノリサイタルを開催した。スクールコンサートも開催し、生徒たちに質の高い音楽に触れる場を提供することができた。
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化により、退会する団体が増加している。芸術文化に関心のある町民が一同に集まる芸術祭期間を活用した周知や、生涯学習センターを利用する団体への勧誘等、新規加盟団体の勧誘を進める。 ・音楽鑑賞事業の出演者を決める際、アンケートを参考にし、遊佐町からの案も提示する必要がある。 ・コンサートの日程について、来場しやすい日程を確保する必要がある。
○今後の方向性（内部評価的な判断）
<ul style="list-style-type: none"> ・将来、芸術文化の担い手である子どもたちの活躍の場を増やし、町と芸術文化協会とで協力して若者育成をしていく。 ・芸術文化協会との情報交換の場をもちながら課題を常に共有し、町内の芸術文化の振興、発展に向けた相乗効果を高めていく。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】②

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ	心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	13	文化財等の調査・保存と継承・活用
	施策	1	文化財の調査・保存の推進

作成：文化係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）	
<p>文化財等の調査を進め、文化財指定などによる保護の措置をとるとともに、未来へ伝えていくための啓発事業を実施する。</p> <p>遊佐町文化財保護条例において、町指定有形文化財の管理又は修理に係る補助金交付の規定があるにもかかわらず、町指定文化財については、国や県指定文化財のような修復の際の補助金の支援をしてこなかった経緯があった。町指定文化財補助金補助金交付要綱を制定し、1件仏像の修理等の案件に対して補助金を交付した。</p>	
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・目標値：○文化財指定・登録等：1件 <ul style="list-style-type: none"> ○文化財報告書等の刊行：1件 ○（新）町指定文化財補助金交付：1件 ・実績及び事業費 <ul style="list-style-type: none"> ○国史跡指定：1件 小山崎遺跡 ○文化庁選定「歴史の道百選」：1件 三崎山旧街道（遊佐町側の追加登録） ○報告書の刊行：1件「小山崎遺跡発掘調査報告書 一総括編2ー」刊行（400部） ○町指定文化財補助金交付：1件 龍頭寺仁王像の修理等 1,000千円 	
○成果（特徴的な事項や良かった点など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・1件「小山崎遺跡発掘調査報告書 一総括編2ー」を9月に刊行、3月に正式に国の史跡に指定された。 ・かねてより課題となっていた龍頭寺の仁王像の応急的修理や固定化を実施した。これにより地震による倒壊のおそれなくなった。この作業の際、仁王像の首の墨書銘を発見し、寛政4年（1792）に造立されたことが判明した。 	
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・石原莞爾と関わる西浜の集会施設「日輪講堂」が歴史的建造物として価値があることが判明し、専門家による調査を実施した。11月には文化庁の調査官も実見し、一定の評価をいただいた。来年度は専門家の協力を得て、報告書を取りまとめ、国の登録を目指したい。 ・パンフレット「史跡鳥海山案内」の残部が僅かとなっているため、改訂版を発行する。 	
○今後の方向性（内部評価的な判断）	
<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年3月、小山崎遺跡が国の史跡に指定された。史跡指定をされると、国からは史跡の保存活用や整備、現状変更等に関する取扱い基準などを定めた史跡保存活用計画の策定を勧められる。来年度前半にも小山崎遺跡保存活用計画策定委員会を立ち上げたい。 ・町指定の天然記念物で松くい虫被害により、文化財指定時の景観が損なわれてしまっている案件がある。文化財保護審議会に諮問し、指定解除等一定の結論を出す時期に来ていると考えている。 	

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】②

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ	心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	1 3	文化財等の調査・保存と継承・活用
	施策	2	民俗芸能・民俗行事の保存と継承・活用

作成：文化係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）	
<p>遊佐町民俗芸能保存協議会が主催する遊佐町民俗芸能公演会が第60回と大きな節目を迎え、盛大に開催することができた。男鹿市で開催された「来訪神サミット 2020 in Oga」と全国的なイベント「なまはげ柴灯まつり」へ遊佐のアマハゲ保存会を構成する3団体全体で参加し、伝承に向けての多くの示唆を受けた。</p>	
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）	
<p>第60回遊佐町民俗芸能公演会：令和元年10月27日（日）開催</p> <p>【町内団体】滝の浦のアマハゲほか3団体、【町外団体】男鹿市「真山なまはげ伝承会」、宮城県登米市「米川の水かぶり保存会」、大崎市「鬼首神楽保存会」：3団体 計7団体</p> <p>目標値：会場の収容可能人数に対する民俗芸能公演会の参加者数：65%以上 実績：64.47%でほぼ目標値であった（入場者数323人÷座席数501）。 公演会開催費用：1,543千円（一般会計より支出分）</p> <p>・育成補助金：5団体へ 計292,000円</p>	
○成果（特徴的な事項や良かった点など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコ無形文化遺産に登録後、2回目となった1月のアマハゲの行事は、職員も現場で見守るなか、大きなトラブルもなく催行された。6日には、鳥崎のアマハゲ保存会の協力により、吹浦小学校児童と保護者を対象にした体験学習会を実施することができた。 ・3集落のそれぞれ特徴などを説明した遊佐のアマハゲのアマハゲのパンフレットを新たに印刷した。また、アマハゲのレプリカを、女鹿2体から、各集落1体ずつ計3体に拡充し、歴史民俗学習館で展示している。 ・第60回遊佐町民俗芸能公演会について ユネスコ無形文化遺産に登録されている東北の3つの来訪神行事団体：男鹿市のなまはげ、宮城県登米市の「米川の水かぶり」、本町の「滝ノ浦のアマハゲ」の競演が実現し、記念大会を盛り上げることができた。大会前夜には、これらの団体からも参加していただき、記念祝賀会も開催され、交流を深めることでできた。 当日の運営スタッフとして、遊佐高校生14名から手伝ってもらい、たいへん助かった。 	
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・地元の意向をふまえつつ、遊佐のアマハゲ保存会役員体制の充実を図りたい。 	
○今後の方向性（内部評価的な判断）	
<ul style="list-style-type: none"> ・民俗芸能公演会は、昭和35年以来連綿として開催されてきており、本町の民俗芸能の保存伝承に多大な寄与があったと考える。令和2年度の第61回大会は、通常予算規模の大会となるが、マンネリにならないよう、魅力的なプログラムになるよう工夫したい。 	

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑭

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ	心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	14	歴史・文化遺産の保存と継承・活用
	施策	1	歴史資料や文化遺産の調査・保存と継承

作成：文化係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）	
<p>・ 事業名：ゆざ学講座・講演会等の開催</p> <p>・ 事業内容：私たちの住む「ゆざ」を様々な角度から学ぶことにより、そこで培われた資質・知識などを吸収し、地域の活性化に役立てていくことを狙いとし、講義と現地講座、展示等を組み合わせ実施する。</p>	
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）	
<p>・ 目標値：1講座当たりの参加者数：20人</p> <p>・ 実績：ゆざ学講座全2回 19.5人/回でほぼ目標数値（延べ39人÷2回=19.5人）</p> <p>・ 事業費 ○ゆざ学講座 講師謝礼 60,000円、費用弁償 9,720円 計 69,720円</p>	
○成果（特徴的な事項や良かった点など）	
<p>○ゆざ学①6/29（土）「アマハゲの民俗世界 ～なぜ怖さを尊ぶのか～」 17名参加 秋田県民俗学会 副会長 齊藤 壽胤氏（秋田市在住）</p> <p>④ 11/13（木）「鱈と川崎船」 22名参加 民俗学者 赤羽正春氏（新潟県村上市在住）</p> <p>1回目は、ユネスコ無形文化遺産に登録されて注目度も高いテーマにも関わらず受講者が少なかったのは、周知不足だったのかもしれないと反省している。2回目は、旧青山本邸の企画展「青山家と鯡」に連動したテーマで、旧青山本邸に隣接する勤労者研修センターの会議室を会場にしたことで、展示室の川崎船の実物を前にしての講師の解説がわかりやすいと好評であった。</p>	
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）	
<p>・ 旧青山本邸に所蔵されている膨大な文書を、遊佐町史編集委員が精力的に調査をされており、庄内における青山家の経済活動がわかってきている。ゆざ学講座では、この旧青山家文書をテーマに1回、昨年度龍頭寺の仁王像の修理に携わった仏像修復の専門家による講座を1回、計2回を予定している。</p>	
○今後の方向性（内部評価的な判断）	
<p>・ 遊佐町は、文化財の宝庫であり（国指定文化財7件、県指定文化財10件）、様々なテーマでの講座が可能である。実際の調査や研究と連動した講座をこれからも企画していきたい。</p> <p>・ 来年度は、小山崎遺跡の国史跡指定を記念して、著名な作家を中心に一般の人にも興味をひくテーマで鼎談を企画している。町内外に広く小山崎遺跡の存在とその価値をアピールする機会としたい（その後、新型コロナ・ウィルスの感染拡大のため、令和3年度に延期）。</p>	

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】㊥

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ	心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	14	歴史・文化遺産の保存と継承・活用
	施策	2	歴史・文化遺産の活用

作成：文化係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）
①旧青山本邸の一般公開と活用 ②歴史的建造物等を活用した文化伝承行事や交流イベントの実施
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標値：一日当たりの入館者数 20 人（入館者数÷開館日数） ・ 実績：16.8 人で目標を達成できなかった。（入館者数 5,255 人÷開館日数 312 日） 新型コロナ・ウィルスの感染が拡大する 2 月分までで昨年度と比較すると、 113 人増加していたが、3 月後半は入館者数が激減してしまった。 ・ 旧青山本邸管理事業費 7,239,776 円、保存整備事業費 1,672,800 円 ・ 旧青山本邸の入館料収入 1,820,750 円 ・ 杉沢文化交流施設（語りべの館・杉沢比山伝承館）の管理運営費 2,962,696 円
○成果（特徴的な事項や良かった点など）
<p>○旧青山本邸 企画展「青山家と鮭」</p> <p>旧青山本邸が開館した時から、青山家の成功の原点である北海道祝津でのニシン漁の盛衰に焦点を当てた展示は課題であった。今回、展示できた実物は僅か、写真やパネルが主体とはいえ、青山家に莫大な富をもたらした当時のニシン漁の有様を少しは紹介できたかと思う。</p> <p>○語りべの館 奇談朗読会 「鳥海山物語」を聞く</p> <p>7 月 15 日（月・祝）に鶴岡市在住の演劇人や演奏家による朗読会は、江戸時代の古民家の雰囲気を生かし、観客 51 人を幽暗の世界に誘った。会場には、この小説のテーマとなった「鳥海山領境争い絵図並びに裁決文」（鳥海山大物忌神社所蔵）の大型レプリカも展示した。</p>
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）
<p>○旧青山本邸</p> <p>新型コロナ・ウィルスの感染拡大の影響により、開館以来最低の入館者数となった。令和 2 年度も 4 月 9 日から臨時休館しており、来館者の増加は見込めない状況である。</p> <p>町のアウトソーシングの積極的導入方針に沿い、管理人の配置を直営からシルバー人材センター派遣に切り替えた。来年度は運営経費（人件費等）を削減するために、冬季間の開館時間短縮を検討する。</p>
○今後の方向性（内部評価的な判断）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「海とともに生きた人々の祈り～遊佐町浜通りの漁業・海運に関する歴史文化財～」が山形県の「未来に伝える山形の宝」に登録された。本事業を活用し、西遊佐地区の神社などに奉納された 91 点もの船絵馬の調査修復事業などともからめ、海とともに生きた村の歴史の掘り起こしと関連文化財の保存に取り組む。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】㊸

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ	心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	15	はつらつとした生涯スポーツ活動の推進
	施策	2	関係団体等との連携と各種スポーツグループ・団体等の支援（1）

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）

●スポーツクラブ等の支援事業

スポーツ基本法に定める総合型地域スポーツクラブの活動を資金面・運営面で支援し、町民がスポーツに親しむ環境を提供することで、町民の健康促進とクラブ活動を通じた地域活性化を図る。令和元年度からは町単独補助となり、イベントの共催・支援、クラブ自立に向けた支援を行う。

○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）

【遊佐町総合型地域スポーツクラブ支援事業補助金】

予算 2,278,000 円

(H30 決算 自立支援事業 1,820,375 円

マネジャー支援事業 1,510,361 円 計 3,330,736 円)

【共催事業】

- ・ 7月15日（月・祝） 海の日西浜イベント
 内容 ビーチフラッグス、ビーチトレジャー
 会場 西浜海水浴場
 参加者数 32名
- ・ 11月10日（日） 「遊's」ソフトバレーボール交流大会
 内容 町内外チーム対抗による男女混合ソフトバレーボール大会
 会場 遊佐町民体育館
 参加者数 64名（11チーム）
- ・ 2月2日（日） 「遊's」リンピック2020スポーツ雪合戦®
 内容 チーム対抗による室内雪合戦
 会場 遊佐町民体育館
 参加者数 25名（5チーム）

【クラブ運営に係わる助言・指導】

クラブ諸会議への参加、クラブマネジャーとの打ち合わせ。

- ・ 総会 1回 ・ 合同会議 11回
- ・ マネジャーとの打ち合わせ 必要に応じて随時（月1回程度）。

【会員数】

163名（H30 145名）

○成果（特徴的な事項や良かった点など）

- ・会員数が昨年度より18名増加し、年々増加傾向である。これはクラブの周知が少しずつ広まってきているためと思われる。
- ・クラブの自立を図るために、毎月開催している各教室への補助は行わず、各教室は月会費で運営してもらうこととした。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

- ・令和2年度に健康福祉課で購入する InBody（体組成計）の管理業務と健康福祉課での測定業務を受託することとなった。受託することによりマネジャーの業務が多忙にならないように、管理業務についてアドバイス等をしていく必要がある。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・令和2年度より会計を補助してくれる事務補助が見つかったため、定期的にマネジャーと事務補助を含めた打合せを開催したい。
- ・健康福祉課で購入する InBody（体組成計）を活用した社会体育事業の実施について検討する。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑳

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ	心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	15	はつらつとした生涯スポーツ活動の推進
	施策	2	関係団体等との連携と各種スポーツグループ・団体等の支援（2）

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）	
<p>●遊佐町体育協会への社会体育施設指定管理委託及び補助金交付によるスポーツ振興</p> <p>遊佐町体育協会への本町社会体育施設（町民体育館、サン・スポーツランド遊佐、農業者トレーニングセンター）の指定管理委託及びスポーツ振興事業補助金交付により、施設管理の効率化と、体育協会との連携による施設利用の促進を図り、生涯スポーツ・競技スポーツの振興を進める。</p>	
○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）	
<p>【指定管理委託料・スポーツ振興事業補助金】</p> <p>遊佐町体育施設指定管理委託料 決算額 18,780,000 円（予算額同額）</p> <p>スポーツ振興事業補助金 決算額 700,000 円（予算額同額）</p> <p>【スポーツ行事の広報】</p> <p>スポーツニュース（町内スポーツ行事年間行事予定表等） 4月15日全戸配布</p> <p>【利用実績】</p> <p>町民体育館、サン・スポーツランド遊佐、農業者トレーニングセンター、町民スポーツ広場、菅里体育館・広場の延べ利用団体数及び延べ利用者数</p> <p>R1 延べ利用団体数 計 2,935 団体</p> <p>R1 延べ利用者数 計 63,358 人</p> <p>※菅里体育館・広場は、指定管理施設ではなく、町が直接管理。町全体の体育施設の利用実績の把握のため、上記数値に含めています。</p> <p align="center">※各施設の詳細な利用実績については、【参考資料 5】「令和元年度 社会体育施設・学校施設・公園施設利用実績」参照。</p>	
○成果（特徴的な事項や良かった点など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・社会体育施設指定管理者の遊佐町体育協会と体育施設連絡調整会議や随時の打合せを行い、施設修繕箇所の検討や振興計画に計上していく必要がある事項について情報共有を行った。その結果、体育館防火シャッター修繕工事、トレーニングセンター道場の一部床張替え、10年以上前から放置されていた体育館1階ゲートボール場脇の簡易トイレ撤去など環境整備につながった。 	
○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進計画で定めた目標指標を達成できるように、今後も施設利用者の増加につながるように体育施設の情報やイベント等の周知方法について検討していくも、今年度は新型コロナウイルス感染症予防の影響により、2・3月の事業がなくなり、利用者が減少した。今後の状況が改善されたらすぐに発信していくことが必要のため、準備し進めておく。 ・町の体育施設が建築より30年以上経過しており、老朽化等により突発的な修繕等が発生 	

する可能性がある(継続)

- ・現状では、体育協会独自のスポーツ推進事業は行われていないため、「遊‘s」との連携・協力に向けた議論を引き続き行っていく必要がある。

○今後の方向性 (内部評価的な判断)

- ・町のスポーツ推進のため、総合型スポーツ文化クラブ「遊‘s」に受託し、センター講座におけるスポーツ教室を開催するなど、町の事業との連携協議を進めていく。
- ・体育施設の老朽化等による突発的な修繕等が発生しても、最小限の被害にとどめるように、体育施設指定管理者と協議をしながら、定期的な点検や計画的な修繕・更新を行っていく。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】㊸

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ 心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	15 はつらつとした生涯スポーツ活動の推進
	施策	4 施設・設備の整備と活用

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）

●冬季レクリエーション施設運営事業

町民がスキーやそり遊びなどの冬季スポーツを楽しみ、健康の維持増進を図れる場を提供するため、鳥海スキークラブの協力のもと、1月～3月の冬期間、三ノ俣に冬季レクリエーション施設を開設している。

○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）

- ・開設期間
 令和2年1月4日から令和2年3月1日まで、毎週火・木・土・日曜日及び祝日
 開設時間：火・木曜日 午後3時～午後7時30分
 土・日曜日及び祝日 午前10時～午後4時
 令和元年度開設日数 火・木 1日、土・日・祝日 4日
- ・施設利用者数
 平成29年度 1,557人（火・木 413人、土・日・祝日 1,144人）
 平成30年度 1,277人（火・木 320人、土・日・祝日 957人）
 令和元年度 219人（火・木 5人、土・日・祝日 214人）

○成果（特徴的な事項や良かった点など）

- ・今年度は暖冬で積雪が少なく、開設可能な日が極端に少なかった。2月下旬には、ソリ遊びができる程度の積雪も見込まれないことから、早めの閉鎖をした。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

- ・アンバーリフトの滑車部に穴が空いているため、安全性を確かめ運転する必要がある。
- ・圧雪車の経年劣化が激しく、修繕に要する費用が拡大している。今後、さらに拡大していく恐れがある。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・近年、圧雪車の故障が続いている。利用者への影響を最低限にとどめるため、運営する鳥海スキークラブとの連携は欠かせない状況である。今後もクラブとの連携・協議を密にし、冬季レクリエーション施設運営事業を継続する。

【遊佐町教育委員会 事務事業点検評価シート】⑳

遊佐町教育振興基本計画上の位置付け	基本的方向	Ⅱ 心豊かに「いのち」輝く町民の育成
	基本施策	15 はつらつとした生涯スポーツ活動の推進
	施策	5 生涯スポーツの推進

作成：社会教育係

○事務・事業の内容（事業名ごとの対象者や方法・手段など）

●第27回奥の細道鳥海ツーデーマーチ開催

東北唯一の日本マーチングリーグ加盟のウォーキング大会として、北は北海道、南は熊本県から参加を募って、9月7日（土）、8日（日）の2日間で開催した。

子どもと歩こう遊佐宣言と町の教育の基本目標、「ふるさとを愛し、未来を拓く「いのち」輝く町民の育成」の具現に向け、仲間とともに豊かな自然の中を歩く喜びを共有しながら、体力の向上と歩行文化の町づくりを目指す。

スタッフやボランティア等、延べ629人の組織体制のもと、鳥海山に育まれた豊かな自然や文化など、全国へ遊佐町の魅力を発信する一大イベントとして、交流人口の拡大にも大きく寄与している。

○実績（数値や表によるデータ、予算・決算など）

- ・予算 町負担金 2,669,557円 (TOTO 助成金 1,840,000円)
- ・大会運営予算（参加料等を含む） 9,320,000円
- 決算 8,544,663円
- ・【目標指数】参加人数 4,000人（2日間延べ人数）
- ・【年度別目標達成率】 【参加者のうち18歳未満参加率（実）】

平成26年度	2,591人／4,000人＝64.7%	38%	781人／2,061人
平成27年度	2,577人／4,000人＝64.4%	28%	580人／2,053人
平成28年度	2,816人／4,000人＝70.4%	36%	810人／2,249人
平成29年度	3,139人／4,000人＝78.5%	33%	816人／2,453人
平成30年度	2,817人／4,000人＝70.4%	34%	781人／2,281人
令和元年度	2,628人／4,000人＝65.7%	35%	766人／2,180人

- *令和元年度参加者等の状況の詳細は【参考資料6】参照

○成果（特徴的な事項や良かった点など）

- ・両日とも37度を超える猛暑の中での開催となった。救護班、給水班、コース班がそれぞれの判断のもとでウォーカーに救護を促したため、事務局把握では1日目は37人、2日目は9人が本部に搬送された。スタート演奏者1名と10kmウォーカー1名が熱中症で救急搬送されたが、2名とも大事には至らなかった。
- ・昨年度より全体の参加人数は少なかったものの、18歳未満の参加率は微増した。また、町内18歳未満参加者は、毎年、町内参加者の50%を占めている。
- ・国道歩道の通行止めにより、直前のコース変更の対応が必要になった。新たなコース変更に係るチェック班、交通指導班との連携や、関係集落等への協力依頼、アナウンスや看板表示での周知など、全ての協力体制が功を奏し、事故等もなく実施することができた。
- ・新聞各社やテレビCM、コミュニティ広報版、広域連携による周知活動等に注力した結果、庄内町の小学校からも参加いただくようになり、産業課との連携もあり新たな協賛企業も

した。

- ・ゆざっとプラザへの歓迎看板設置により、運営面の充実に努め、県外参加者や 10k コースのウォーカーにアピールすることができた。併せて、JR 秋田支社への設置申請が必要となった。
- ・今年度から、歓迎の小旗の設置及び撤去をシルバー人材センターに委託、カラーコピー機を業者にリース、和室だった事務所の畳を撤去し常時会議室等として使用するなど、事務局の業務を見直した。

○課題（改善すべき点や次年度以降への注意点など）

- ・近年暑い日が続いていて、ウォーカー及びボランティア、スタッフの体調を考慮すると、気温 37℃以上のイベント開催について検討が必要。日本マーチングリーグや東北マーチングリーグの状況を参考にして検討していく。
- ・トレーニングセンターで開催したウォーカーのつどいは、エアコンがないため今年は特に不評だった。アトラクションの団体も暑い中、毎年大変な準備をして行ってくれているため、エアコンが完備された会場への変更を検討していく。
- ・平成 12 年 9 月の第 8 回大会で、「子どもと歩こう運動」Y U Z A 宣言をした大会であるため、子どもたちの「歩育」の推進に向け、これまでの歩みを検証し、近隣市町との広域連携のもとで各小学校の PTA の新年度の構成が決まる 2 月に情報発信をし、更に本募集を 5 月中旬に行う必要がある。
- ・募集締め切りから当日までの期間が短く、その後の準備に係る期間の事務が煩雑になるため、事務局会議、総会、募集開始を約 2 週間程度早めて余裕を持った準備を進める。
- ・当日になって完歩証の用意がされておらず、急ぎょ印刷をして発行した。また、ゼッケンが色落ちすることが判明した。いずれも大きなクレームはなかったものの、楽しんで参加した一部のウォーカーを落胆させてしまった。完歩証については、事務局の連携不足によるチェックミス、ゼッケンについては、これまでの印刷行程より少ない作業で行える素材に変更したものの、結果、業者の最終確認ミスであり、いずれも人的なミスとなった。ゼッケンに印刷する協賛事業所のデザイン提出が遅れたことにより、業者への依頼が遅れ、納品も袋詰め前日と、余裕のない中起きてしまった。全体的に 2 週間程度早めて準備を進めていく必要がある。

○今後の方向性（内部評価的な判断）

- ・国道歩道の通行止めに関し、関係団体と協議し早期に方針決定する。困難な場合は昨年同様のコースを実施する。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、協賛事業所及び事前申込の減少が想定される。全体的な予算の減額、記念品などの発注を抑え、事前申込者と当日申込者への配布物を変更することを検討したい。（例：当日申込者への大会要綱、エコバックの廃止など）
- ・「子どもと歩こう運動」Y U Z A 宣言の趣旨のもと、「歩育」の推進に向け、幼・保・小中高校との連携や広域連携も視野に入れながら、大人へも子どもへも日常的なウォーキング活動の啓発とツーデーマーチへの参加促進を図っていく。新年度の構成が決まる 2 月に情報発信をし、更に本募集を 5 月中旬に行っていく。
- ・ウォーカーのつどいの参加申込は約 70 名であるため、募集人数も 70 名にし、会場を生涯

学習センター2階大会議室に変更して実施する。アトラクション団体には説明を行い了承済みで、小研修室廊下前から踊りながら会場に入り、狭い中で交流を図ってもらう。
また、会費を1,000円から1,500円にし、抽選会（遊佐町の特産品）の費用としていく。